

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第132集

NO ZA WA KA N SE KI

# 野 沢 館 跡 VI

—長野県佐久市大字野沢野沢館跡VI発掘調査報告書—

2005.3

佐 久 市  
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第132集

NO ZA WA KA N SE KI

# 野 沢 館 跡 VI

—長野県佐久市大字野沢野沢館跡VI発掘調査報告書—

2005.3

佐 久 市  
佐久市教育委員会

## 野沢館跡 VI の調査について

野沢市街地の真ん中に3mもの高さを持つ大規模な土塁と堀に囲まれた方形の館があります。市街地の中心にありながら数百年以上もの長い間、この土塁が残されてきたことは大変重要なことです。中世の居館址として昭和40年に「伴野城跡」という名称で、長野県史跡に指定されました。野沢平一帯、さらには佐久地方の平安時代末から中世にかけての歴史を明らかにしていく上で、「一遍上人絵伝」や他の歴史資料と共にこの館跡は、貴重な存在です。

近年、発掘調査がこの館跡周辺でも多くなってきました。発掘調査の増加は、館跡の範囲、造られた時期、変遷していく様子などの解明に多くの資料を提供しています。江戸時代の絵図や残された文献資料、現状の地積図や周辺の水路との照合で、館跡の主郭のほかに周囲に展開していたであろう外郭が予想されていました。

平成14年の、「まちづくり総合支援事業城山公園整備」事業に先立つ確認調査で、今見ることができる土塁は戦国時代に築造されたもの、土塁を巡る水路は堀であったこと、主郭の出入り口と土の橋の存在が実際に確認されました。

今回の調査では、堀と考えられる溝が2箇所からみつかりました。外郭の施設である堀や土塁があると予想されていた場所からの発見であって、今後の館跡の実体解明に大きな資料となります。





39-40. 陶器 灰釉皿 瀬戸・先遣 18c  
 41-42. 陶器 灰釉七宝碗 瀬戸・美濃 18c  
 43. 陶器 灰釉水鉢 瀬戸・美濃 18c  
 44. 陶器 灰釉灯明皿 瀬戸・美濃 18c  
 42-52. 陶器 灰釉供子碗 唐津 18c

53. 磁器 染付徳利 伊万里 18c  
 54-56. 陶器 灰釉鉢 川越石焼少? 18c 後半  
 57. 陶器 染付陶胎碗 伊万里 18c 後半~19c 前半  
 58-90. 磁器 染付碗・皿 伊万里 近世  
 91. 磁器 染付皿 伊万里 19c

92-94. 磁器 染付碗 伊万里 19c  
 95. 陶器 鉄線台陶付灯明具 在地 幕末  
 96-100. 陶器 銅輪灯明具 在地 幕末~近代  
 101. 陶器 鉛釉茶 在地 幕末~近代

## 例 言

- 1 本書は、佐久市が行う野沢本町沿道整備土地区画整理事業に伴う、野沢館跡Ⅵ調査報告書である。
- 2 調査原因者 佐久市 調査主体者 佐久市教育委員会
- 4 遺跡名及び所在地 野沢館跡Ⅵ (NNZ Ⅵ) 佐久市大字野沢字居屋敷62-1・2・3・6・8、  
58-1
- 5 調査期間及び面積 発掘調査 平成15年11月17日～12月26日 平成16年3月9日～3月19日  
整理調査 平成16年4月1日～平成17年1月20日  
調査面積 380㎡ 開発面積 450㎡
- 6 長野県埋蔵文化財センター河西克造氏には数々のご指導をいただき、陶磁器類等については長野県埋蔵文化財センター市川隆之氏のご教示をいただいた。
- 7 本遺跡の発掘調査は佐々木・三石・林が担当した。整理作業・遺物実測・遺物写真撮影・報告書の編集は塚が、執筆は林が担当した。
- 8 出土遺物及び調査に関する資料は、佐久市教育委員会文化財課の責任下に保管されている。

## 凡 例

1. 遺構の略号は、竪穴状遺構T a・土坑D・ピットP・堀址M・特殊遺構Tである。
2. 挿図の縮尺は、遺構-1/80、遺物-1/4を基本とした。図中に縮尺とスケールを明記した。
3. 土層及び遺物胎土の色調は、1999年版『新版 標準土色帖』に基づいた。
4. 写真図版中の遺物番号は挿図における遺物番号と同一であり、縮尺は図版中に明記した。
5. 遺物観察表中における( )は推定値、〈 〉は残存値であり、-は計測不能を表している。

遺構	地山断面		焼土		灰		石	
遺物	須恵器断面		黒色処理		釉		すり面	

## 目 次

巻頭カラー図版

例 言・凡 例

### 第1章 調査の概要

第1節 調査の経緯と経過	1
第2節 調査組織	1
第3節 調査日誌	1

### 第Ⅱ章 野沢館跡の立地と概要

第1節 野沢館跡の立地	2
第2節 野沢館跡の概観	4

### 第Ⅲ章 遺構と遺物

第1節 遺構	5
1 竪穴状遺構	5

2 土坑	6
3 ピット	11
4 堀址	18
5 集石址	22
6 地下室	22
第2節 遺物	22
第Ⅳ章 まとめ	38

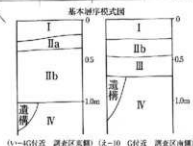
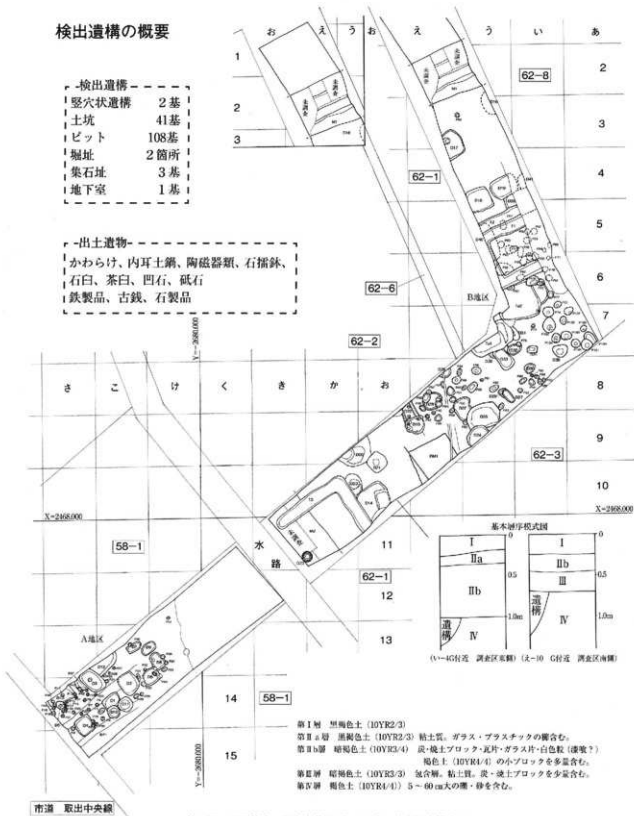
# 検出遺構の概要

検出遺構

竪穴状遺構	2基
土坑	41基
ピット	108基
堀址	2箇所
築石址	3基
地下室	1基

出土遺物

かわらけ、内耳土鍋、陶磁器類、石拵鉢、石臼、茶臼、凹石、砥石
鉄製品、古銭、石製品



- 第I層 黒褐色土 (10YR2/3)
- 第II a層 黒褐色土 (10YR2/3) 粘土質。ガラス・プラスチックの雜含む。
- 第II b層 暗褐色土 (10YR3/4) 炭・焼土ブロック・瓦片・ガラス片・白色粒 (糠埃?) 褐色土 (10YR4/4) の小ブロックを多量含む。
- 第III層 暗褐色土 (10YR3/3) 気合層。粘土質。炭・焼土ブロックを少量含む。
- 第IV層 褐色土 (10YR4/4) 5~60cm大の塊・礫を含む。

市道 取出中央線

第1図 野沢館跡VI調査全体図 (1:250)・基本層序模式図

# 第 I 章 調査の概要

## 第 1 節 調査の経緯と経過

野沢館跡は佐久市大字野沢・原に所在し、千曲川左岸に広がる標高675m内外の河岸低段丘に展開する。平安時代末期から中世の居館址として、昭和40年に「伴野城跡」と称して長野県史跡に指定されている。

伴野城跡は「鎌倉時代以来伴野氏の館跡で後の野沢城の主郭にあたる。東西74～85m、南北110mの長方形で周囲に用水路が巡り、その内側に沿って西・北・東の三方に土塁を残している。室町から戦国時代に伴野氏が二の郭・三の郭などを設け堀を巡らすなどして規模を拡大した。江戸時代以降は官庫・陣屋・岩村田藩出張所など官公地として存続した。」と『佐久市志』に記述されている。



第 2 図 野沢館跡Ⅵ・周辺遺跡 (1:100,000)

平成3年度野沢館跡Ⅰ・Ⅱの調査で、中世の土坑・柱穴址・石組遺構等が検出されている。また、平成11年度薬師寺遺跡では近世の寺院と中世の池が調査され、平成13年度の野沢館跡Ⅲ、平成15年度の野沢館跡Ⅴでは土坑・柱穴址が調査されている。平成14年度の「まちづくり総合支援事業城山公園整備」に伴う野沢館跡Ⅴの調査では、虎口・土橋・主郭の堀のプラン(一部)が確認された。

今回、佐久市区画整理課が行う「野沢本町沿道整備土地地区画整理事業」に伴い、佐久市教育委員会が発掘調査を実施する運びとなった。

## 第 2 節 調査組織

調査主体者	佐久市教育委員会	教 育 長	高柳 勉
事務局	教育次長	赤羽根寿文	
	文化財課長	嶋崎 節夫 (平成15年度)	小林 正衛 (平成16年度)
	文化財係長	高村 博文	
	文化財係	林 幸彦	三石 宗一 (平成15年度) 須藤 隆司 小林 眞寿
		富沢 一明	上原 学 赤羽根太郎 出澤 力
調査体制	調査担当者	三石 宗一 (平成15年度)	林 幸彦
	調査主任	佐々木宗昭	
	調査副主任	堺 益子	
	調査員	浅沼ノブ江	岩下 友子 柏木 貞夫 柏原 松枝 桜井 敦子
		小林喜久子	小林百合子 中島フクジ 中條 悦子 成澤 富子
		羽田 貴恵	花岡美津子 平林 泰 堀籠 滋子 堀籠みさと
		真嶋 保子	山浦 豊子 和久井義雄 渡辺 長子

## 第 3 節 調査日誌

平成15年11月17日	B地区機械で表土剥ぎ開始。 遺構確認精査。	3月10日	A地区遺構掘り下げ・実測。
11月21日	遺構掘り下げ・実測。	3月19日	A地区全体写真撮影。
11月25日	B地区全体写真撮影。	平成16年4月5日	A地区器材撤収、現場終了。 室内作業開始。遺物接合・
12月26日	B地区器材撤収、現場終了。		遺物実測・遺物写真撮影
平成16年3月9日	A地区機械で表土剥ぎ開始。	12月～2月	原稿執筆。報告書刊行。

## 第Ⅱ章 野沢館跡の立地と概要

### 第1節 野沢館跡の立地

野沢館跡は、千曲川以西、佐久市南部の中心部に位置し、千曲川の西約300mの沖積地に存在しており標高約675mを測る。この付近は佐久平中心部の沖積氾濫源の堆積地帯で、地層は黄褐色の砂質細粒粘土層とその下部に大小の円礫を多量に含む砂礫層が観察され、数メートルの厚層であることは付近の古井戸から推定される。

これらの堆積当時の状態を考えると、千曲川の洪水氾濫期が長く続き流路は至る所を移動し、上流の八ヶ岳・佐久山地からの多量な大小各種の砂礫を佐久平一面に溢流堆積したもので各所に自然堤防なども形成した。野沢平のこの辺りは土壌も肥沃であり古くから用水施設も完備され、冷旱もない水田適地である。野沢館跡の堀へ引水した水路が起源であると伝えられる八か用水（野沢堰）は、野沢町の古村名（今の大字）高柳・鍛冶屋・本新町・取出・野沢・原・三塚・跡部の八ヶ村を潤すので命名されたもので、臼田町稲荷山下で千曲川から取水し、道川・柳沢用水・一本柳用水に分水して野沢平の田用水として利用されている。

（佐久埋蔵文化財調査センター調査報告書第13集『薮沢 葛石』より抜粋、一部加除）

野沢館跡が所在する沖積低地や西側の台地上には、数多くの遺跡が見られる。（第2図）西側の山地と台地上からは、先土器時代の立科F遺跡、縄文時代前期の後沢遺跡・榛名平遺跡、中期後半の中村遺跡・榛名平遺跡・筒村B遺跡・山法師B遺跡、後期の瀧の下遺跡などが調査されている。沖積低地からは、集落は発見されていない。

弥生時代では片貝川両岸の台地上で、中期・後期の後沢遺跡・竹田峯遺跡、後期の榛名平遺跡・舞台場遺跡が調査されている。長い間千曲川と片貝川に挟まれた沖積微高地上で、弥生時代の集落は知られていなかった。が、平成15年によく中道遺跡Ⅱや中道遺跡群（試掘）、平成16年に宮浦遺跡群・平馬塚遺跡群で後期の竪穴住居址や溝址が検出された。

古墳時代の集落は、沖積低地で両場整備に伴い中道遺跡・市道遺跡・三塚町田遺跡・跡部町田遺跡・三塚鶴川遺跡・上桜井北遺跡・舞台場遺跡などが調査されている。台地上には榛名平遺跡・後沢遺跡がある。近年では道路改良事業（国道141号）など各種の開発に伴い、谷筋の台地上で新海坂遺跡・村上遺跡、沖積微高地上で跡部窪川遺跡・跡部町田遺跡Ⅱ・寺添遺跡・市道遺跡Ⅱ・宮添遺跡・中道遺跡Ⅱ・東五里田遺跡・市道遺跡Ⅲの調査が実施され、弥生時代末から古墳時代初頭・中期後半・後期の集落址が調査されている。

佐久地域では数少ない生産遺跡の調査が根岸の石附窯址群で行われている。7世紀後半の須恵器窯2基と木炭窯5基が検出されている。

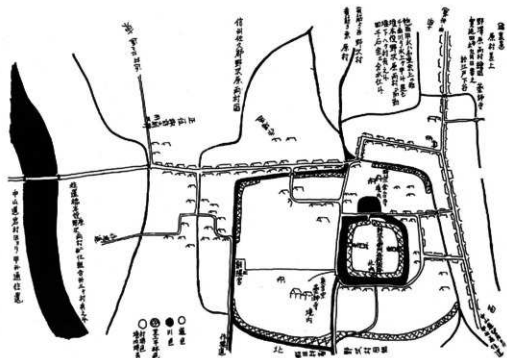
古墳は、佐久市志編纂事業に伴う瀧の峯古墳群、後期から終末期に属する横穴式石室の榛名平Ⅰ号墳と坪の内古墳が調査されている。

奈良・平安時代の集落は、台地上では榛名平遺跡・後沢遺跡が、沖積低地からは古墳時代とほぼ同様な遺跡で集落址が確認されている。道路改良事業（国道141号）に伴う調査範囲は、広大な沖積微高地の大規模なトレンチ状調査となり、さらに南に延長され新たな遺跡が発見されている。中道遺跡からは奈良三彩の蓋と和同開珎、榛名平遺跡からは奈良二彩の蓋が出土している。

佐久市内の遺跡調査は開発頻度により旧浅間町に集中し、膨大な資料が蓄積されている。比べて旧野沢町では調査例も少なく面積的にも小規模である。しかしながら、調査事例の増加に伴い、特に道路改良事業（国道141号）に伴う調査結果は、千曲川と片貝川に挟まれた広大な沖積低地に相当規模な古代遺跡群の存在を窺わせるものである。

鎌倉時代以降になると野沢館跡や前山城跡が伴野氏によって築かれたとされ、「一遍上人絵伝」にも当時の伴野氏館の様子が描かれている。また、他の佐久市域と同様に西側山地の尾根状には、日向





第3図 伴野城跡絵図 (『長野県の中世城館跡-分布調査報告書-』より転載)



第4図 周辺道路分布図 (1:5000)

城跡・宝生寺山砦・前山古城跡・荒城跡・荒山城跡などが築かれている。

中世の遺跡調査例も増加している。平成5・6年度には、蓼科山麓の西から東へ傾斜する丘陵地形の先端台地上の根岸榛名平遺跡が調査された。サンピア佐久建設に伴い52,000㎡という広大な面積の調査対象地から、13～17世紀初頭の多くの遺構と遺物が発見された。13世紀代には堅穴状遺構を中心とし、15世紀代から藩に囲まれた建物址群（屋敷地）が検出された。さらに、周辺地域には調査類例の少ない14世紀後半～16世紀に築造された65基もの墳墓群が発見された。火葬墓が15基、集石土墳墓が26基、土坑墓26基であった。

同じく根岸の虚空蔵山狼煙台（山城址）が、ふるさと自然のみち事業により破壊されることになり調査された。虚空蔵山山頂の狼煙台とされる山城址は、尾根先端部を縦堀により隔離し北と西に土塁を構築している。遺構は土塁に囲まれた平坦部分が北側に緩く傾斜する面から、3段に構築された堅穴状遺構が検出された。土師質土器や石臼が出土し、短期間でない人の駐留が想定されている。

桜井の石堂遺跡からは、15世紀の卯屋を伴う堅穴状遺構1基とかかわりけ・陶磁器や石播鉢等が検出されている。平成16年度に調査された平馬塚遺跡Ⅰからも14～15世紀の堅穴状遺構・土坑・ピット群が発見されている。

## 第2節 野沢館跡の概観

佐久市野沢市街地の金台寺北側にある城館跡は、「伴野氏館跡」「野沢城跡」「伴野城跡」「野沢館跡」などと従来複数の名称で呼ばれている。が、近年の調査では「佐久市遺跡詳細分布調査報告書」に依り「野沢館跡」と呼称している。

今回調査を行った野沢館跡Ⅵは佐久市大字野沢字屑屋敷62-1他に所在する。昭和40年に長野県史跡に指定された土塁と水路が巡る野沢館跡の主郭に対して、外郭の上塁や堀の想定されている一帯である。大伴神社をはじめ南に金台寺、東に成田山薬師寺といった寺社に囲まれた野沢市街地の中心部に位置している。

「伴野城跡」として長野県史跡に指定されているのは東西74～85m、南北110mの範囲内で、現在は周囲に用水路が巡り西・北及び東の一部に高さ約3mの土塁が残っている。

野沢館跡のはじまりについては二つの見方があるとき、<sup>(註1)</sup>「ひとつは野沢を名字とした人物として、平安末期、木曾義仲に従った野沢太郎が知られていることから、平安末期この地には野沢氏が住んでいたと考え、野沢城はこの野沢氏にはじまるとするものである。そして鎌倉幕府初期に甲斐から佐久伴野野庄の地頭に補任された小笠原長清から、その子時長に引き継がれたと考える。もう一つは、小笠原長清の子で伴野氏を名乗った時長がその子の時直が築いたとするものである。」その後、伴野氏と大井氏の争い、伴野一族内の争いの中で、防衛強化の必要から現在の野沢館跡を主郭として外郭を設けて城郭としての形態を整えるようになったとされている。<sup>(註2)</sup>寛延四年（宝暦元、一七五二）の絵図を第3図に示した。江戸時代以降の野沢館跡については、「江戸時代になってからの野沢城址は、先ず小詰に在城して佐久を領した仙石氏が、ここに米倉を建てて年貢米の貯蔵に当てる。その後江戸の中期佐久の大部分が幕府領となった当時、代官の陣屋がこの城址に設置され（代官馬場源兵衛）又米倉も置かれて貢米の貯蔵が行われた。享保三年（一七二八）役所を廃止するに当たって、ここを村の郷倉地に下付したという。明治になり、二十二年にこの館跡に城山館が建てられ、更に四十四年には村社諏訪社を館跡の一角に移し、以前からここに在った八幡社と合祠し、旧庄名に因んで大伴神社と称した。以来この館跡は、大伴神社の境内地並びに公園となって現在に及んでいる。」<sup>(註3)</sup>と記載されている。近年では昭和36年に野沢会館が建設され、昭和51年からは城山公園（都市公園）として市民の憩いの場として広く利用され今日に至っている。今回の調査地付近は、昭和58年に行われた佐久市遺跡詳細分布調査によって主郭・外郭を中心に「野沢館跡」として周知され、本調査の他に「薬師寺遺跡」（平成11年度）・「野沢館跡Ⅲ」（平成13年度）・野沢館跡Ⅳ（平成14年度）などの発掘調査が実施されている。

註1) 藤澤 利章 1993 「第三章 第一節 二武士と館」佐久市志 歴史編(二) 中世  
註2) 小内 克 1993 「第六章 第五節 二城跡と集落」佐久市志 歴史編(二) 中世  
註3) 半井 寛二 1972 伴野氏館跡(野沢城)米倉Ⅰ資料第1 伴野氏館跡米倉 伴野氏について

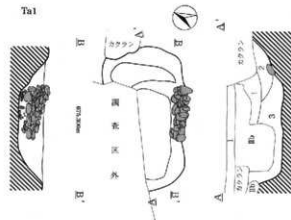
# 第三章 遺構と遺物

## 第1節 遺構

B地区はほぼ全域を全体層序II層（近代・現代の陶磁器・瓦、）の整地層が覆っており、近世・中世の遺構上部を破壊していた。

### 1. 竪穴状遺構

東側にテラス状の張り出し部を有するものが、B地区から2基検出された。



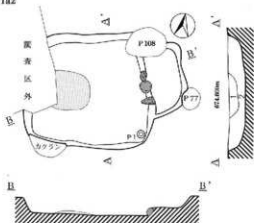
Ta1の土層説明

1. 黒褐色土 (1993/2) 粘質土。礫 (2~10cm) を含む。
2. 黒褐色土 (1992/3) 粘質土。礫 (2~10cm) を含む。
3. 黒褐色土 (1993/2) 灰黄褐色 (10YR4/3) の小ブロックを多数含む。礫 (2~10cm) を含む。

Ta1

図版番号	図版6-50・51		
検出位置	B地区 うー7		
重覆状態	北西面 調査区外 カクランに壊され、D33・D34・D36を切る。		
平面形態	長方形		
規模	長さ	壁高	
北壁側	-	-	
東壁側	-	-	
南壁側	196	67.5 ~ 78.5	
西壁側	-	61 ~ 67	
張り出し部	位置	東壁	形状
	長さ×幅×高さ	60×156×48	
面積	6.448㎡		
長軸方位	N-63°-E		
出土遺物	磁器	染付瓦 (近世) (陶器2250)	
	磁器	染付銅 (近世) (陶器35)	
	磁器	染付瓦 (19C) (陶器63)	
		内耳 (中世)	

Ta2



Ta2の土層説明

1. 暗褐色土 (1993/3) 砂質シルトブロックを多数、炭化物を微量含む。
2. 黒褐色土 (1992/3) 炭化物を少量、小石を多数含む。

0 (1:80) 2m

Ta2

図版番号	図版6-52		
検出位置	B地区 いーうー6・7		
重覆状態	北西面 調査区外 カクラン・P77・P79・P80・P108に壊される。		
平面形態	長方形		
規模	長さ	壁高	
北壁側	-	24 ~ 35	
東壁側	248	23 ~ 46	
南壁側	272	23 ~ 39	
西壁側	-	36 ~ 37	
張り出し部	位置	東壁北寄り	形状
	長さ×幅×高さ	94×140×42	
面積	9.504㎡		
長軸方位	N-76°-E		
出土遺物	かわらけ (中世) 内耳 (中世)		

第5図 Ta1・Ta2号竪穴状遺構実測図

### Ta1号竪穴状遺構

本址はB地区う-7グリッドから検出され、北西側が調査区域外に伸びる。東の一部を攪乱に壊され、覆土の多くも近代の整地の際に大きく攪乱されている。D33・D34・D36号土坑より新しい。

形態は東西が長軸となる長方形を呈する。南壁の規模は長さ1.96m壁高0.67mを測り、検出部分の底面面積は1.52㎡である。底面は、貼床はみられず軟弱である。

長軸方位はN-63°-Eを示す。覆土は人為的な堆積状況であった。

D33・D36号土坑と重複する南壁には、壁の補強のためと思われる石積みが見られた。5～30cm大の川原石が、東西1.36m深さ0.6mの範囲に垂直に近く直線的に積まれている。

遺物は、内耳土銅片・伊万里染付皿（近世）（陶磁器50）・伊万里染付碗（近世）（陶磁器55）・伊万里染付皿（19世紀）（陶磁器63）が出土した。

これらの遺物とD33・D34・D36号土坑より新しい重複関係から所産時期は、近世（19世紀）と考えられる。

### Ta2号竪穴状遺構

本址はB地区い・う-6・7グリッドから検出され、西側が調査区域外に伸びる。南壁の一部を攪乱に、東の壁をP77・P79・P80・P108号ピットに壊されている。

形態は東西が長軸となる長方形を呈する。規模は南壁2.72m東壁2.48m壁高0.23～0.46mを測り、検出部分の底面面積は5.52㎡である。底面は、貼床はみられず軟弱である。

長軸方位はN-76°-Eを示す。覆土1・2層に少量の炭化物が見られた。西壁に近い底面上に1mの範囲に厚さ10cmほど灰が堆積していたが、「炉」としての火床面は確かでない。

東側に付く張り出し部は、ほぼ平坦で底面から20cmほど高くなっている。

遺物は、内耳土銅片・かわらけ片が出土した。所産時期は、中世と考えられる。

## 2. 土坑

土坑はA地区で13基B地区で28基の計41基が検出された。出土した遺物や重複関係などから所産時期はD1～13・18・19・24・26・31・34・35・37～41の25基が中世、D32・33・36の3基が近世、D15・D20が近代、他の11基が時期不明である。

形態は方形・長方形・円形・楕円形・台形・不整形があるが、長方形・円形・楕円形の土坑が多い。

A・B地区とも近現代において整地されており、40～50cmほど攪乱を受けていて、確認された遺構の深さは、20～40cmである。D21・D23・D35・D36・D39は、60～95cmと深く掘り込まれている。

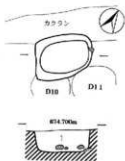
M2号堀址の外側にあたるA地区の13基は、A地区45個のピット群と共にすべて中世である。B地区の中世の土坑15基は、M1号・M2号堀址から5～8m距離を置いた堀址の内側から検出された。グリッド4～10列に収まる。

中世の土坑覆土は、15基に焼土や炭化物を含んでいる。特にB地区では13基中の11基にみられた。D6・D24・D41は多量に含む。D24・D35には、礫（5～40cm）が、壁に密着して廻るように配置されていた。D24には、炭が多量に検出された。D35にも炭化物と灰がみられ、特に底面に多い。D10・11は近接しており形態等酷似している。D11号土坑は、A地区こ-14グリッドから検出された。形態は円形で、規模は径1.4m深さ57cmを測る。覆土1層は地山の砂粒を含み、堆積の形は土断面形状と相似形である。2層は5～30cm大の礫を含む暗褐色の粘質土で、しっかり締まっている。2層に沿った形のもの（桶状のもの）が土中に固定されていたことが窺える。

D21・D23は深く掘り込まれ、多量の礫（5～50cm大）が詰まっていた。中には茶臼もみられる。礫と土砂を埋めたものであろう。

D14・D15は、焼土が多量にみられ、底面まで焼け込みがみられた。D14は底面南北側に切石を据え、多量の瓦と土を用いて築造されていたものであろう。D15からは底面に据えられていたであろう4個の直方体切石が、出土した。多量の焼土と細片となった焼け込んだ壁体が堆積していた。

D 1



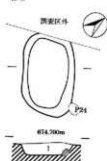
D1の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質土、粘土・灰を少量、小礫を微量含む。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物を含む、地山の砂粒・砂ブロックを含む。
3. 砂と灰の混合物。

D 2



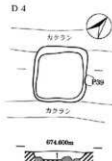
D 3



D3の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物を含む、粘土粒子・地山の砂粒を少量含む。

D 4



D4の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物を少量含む、地山の砂粒・砂ブロックを含む。

D 5



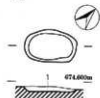
D5の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質土、灰を少量含む。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質土、灰を多量含む。

D 7



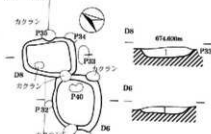
D 9



D9の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物を少量含む。

D 6



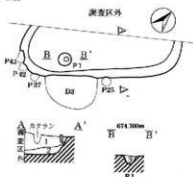
D6の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質土、灰・流土を少量含む。

D8の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質土、灰・流土を少量含む。

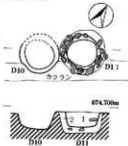
D12



D12の土層説明

1. 黒褐色土 (10Y R2/3) 粘土・炭化物を含む。
2. 黒褐色土 (10Y R2/3) 炭化物を少量含む、地山の砂粒を含む。
3. 黒褐色土 (10Y R2/3) 炭化物を含む、地山の砂粒を少量含む。

D10 D11



D10の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/4) 地山の砂粒を含む。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質土。

D13



D13の土層説明

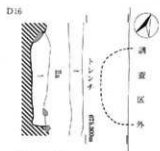
1. 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物を少量含む、地山の砂粒・砂ブロックを含む。

0 (1:80) 2m

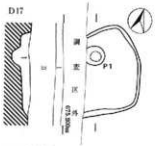
第6図 土坑実測図(1)



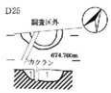
D14の土層説明  
 1. 暗褐色土 (10YR2/0) 粘土・焼土を多量含む。  
 2. 黒色土 (10YR2/1) 炭。  
 3. 赤褐色土 (2.5YR4/6) 粘土主体。



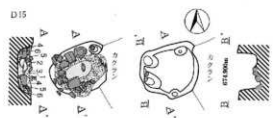
D16の土層説明  
 1. 暗褐色土 (10YR2/4) 炭を少量、籾 (2~5cm大) を多量含む。



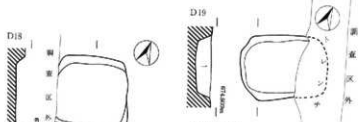
D17の土層説明  
 1. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭を少量含む。



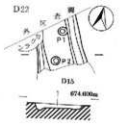
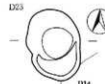
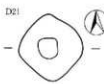
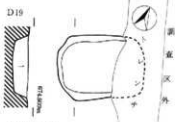
D25の土層説明  
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) 砂質で炭化物・小石を微量含む。



D15の土層説明  
 1. 暗褐色土 (7.5YR2/3) 粘質土。  
 2. にぶい赤褐色土 (5YR4/4) 粘土。  
 3. にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 炭。  
 4. 暗褐色土 (5YR2/3) 粘質土。粘土ブロック (固い) を多量含む。  
 5. 暗赤褐色土 (5YR3/6) 焼土 (焼けた煉瓦土が加算したもの)。  
 6. 暗赤褐色土 (5YR3/6) 焼土。



D18の土層説明  
 1. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘質土。炭を少量含む。



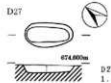
D22の土層説明  
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) 砂質で炭化物を少量含む。



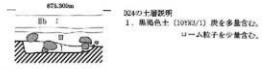
D23の土層説明  
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。5~30cm大の炭を多量含む。



D21の土層説明  
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。



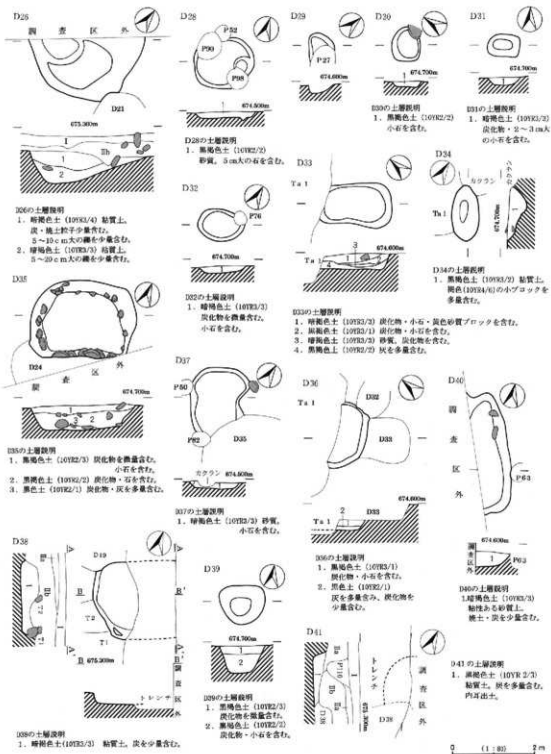
D27の土層説明  
 1. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物・小石を含む。



D24の土層説明  
 1. 黒褐色土 (10YR3/1) 炭を多量含む。ローム粒子を少量含む。



第7図 土坑実測図(2)



第8図 土坑実測図(3)

第1表 土抗一覧表①

遺構名	検出位置	基礎関係	平面形態	長軸方位	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	壁残高 (cm)	備考 (出土・遺物など)
D1	A地区 こ-14	カタラン・D10・D11に切られる。	長方形	N-32°-E	136	<110>	60	水渠遺管 (古銭 7) かわらけ (中世) 土甕 (中世)
D2	A地区 こ-14	カタランに切られる。	方形	N-35°-W	160	140	45	かわらけ (15C末~16C) (かわらけ 7) かわらけ (15C後半以降) (かわらけ 15) かわらけ (中世) 土甕 (中世)
D3	A地区 き-14	P24に切られる。D12を切る。 北側調査区外。	長方形	N-47°-W	<194>	126	37	土甕 (15C中頃) (土甕等 1) 瓦葺屋根 (中世) (土甕等 20) 大塚灰地丸蓋 (陶磁器 16) 大塚灰地・縁付大目茶碗 (陶磁器 22) 陶器 (唐津) (陶磁器 31) 唐式遺管 (古銭 5) 不明古銭 (古銭 16) かわらけ (中世) 土甕 (15C後~16C前) 土甕 (中世) 瓦葺屋根 (中世)
D4	A地区 さ-14	カタラン・P2・P39に切られる。	方形	-	<134>	<128>	20	土甕 (15C後~16C前) (土甕等 10) かわらけ (中世) 土甕 (中世) 十能製火鉢 (産量以降)
D5	A地区 き-14	P16・P17に切られる。 D13を切る。	円形	-	<80>	62	35	
D6	A地区 こ-14	カタラン・P30・P32に切られる。 P40と重複 (断面不明)。D8と重複 (断面不明)。	長方形	N-55°-E	<132>	120	23	土甕 (15C後~16C前) (土甕等 12) 土甕 (15C後~16C前) 土甕 (中世)
D7	A地区 こ-13	P36に切られる。	楕円形	N-56°-E	116	60	21	土甕 (15C後~16C前) (土甕等 6・11) 石臼 (下臼) (77) 碓鉢・石臼・碓臼 10) 大平銅曹 (古銭 2) かわらけ (中世) 土甕 (中世)
D8	A地区 け-13	カタラン・P31・P33に切られる。 D6と重複 (断面不明)。	長方形	N-40°-W	132	86	31	かわらけ (中世) 土甕 (中世)
D9	A地区 こ-13		長方形	N-52°-E	124	78	16	角釘 (鉄製品 29) 土甕 (中世)
D10	A地区 こ-14	カタランに切られる。 D1を切る。	円形	-	98	96	43	磁石 (磁石・不明石製品 4) 土甕 (中世)
D11	A地区 こ-14	カタランに切られる。 D1を切る。	円形	-	74	74	57	
D12	A地区 き-14	D3・P25・P37・P42・P43に切られる。 北側調査区外。	楕円形?	-	<96>	<110>	46	土甕 (15C後~16C前) (土甕等 8) 瓦葺屋根 (中世) (土甕等 20) 土甕円板 (土甕等 23) 大塚灰地丸蓋 (陶磁器 18) 大塚灰地・縁付大目茶碗 (陶磁器 22) 平造元筒 (古銭 1) 不明古銭 (古銭 18) かわらけ (中世) かわらけ (15C後半以降) 土甕 (中世)
D13	A地区 き-14	カタラン・D5・P13・P15・P18・ P44・P45に切られる。北側調査 区外。	台形?	-	<206>	<80>	29	土甕 (15C中頃) (土甕等 1)
D14	B地区 お-10・11	西側調査区外 T3・カタランに切られる。 D23を切る。	長方形?	N-32°-W	<224>	248	30	四方鉢切石
D15	B地区 え-19	カタランに切られる。 D22を切る。	長方形	N-80°-E	<148>	128	39	白磁器 (陶磁器 9) 磁器坐付輪 (伊万里) (陶磁器 60) 土甕 (中世) 瓦 (近代) 磁器染付皿 (伊万里) (近世)
D16	B地区 い-3	東側調査区外	不明	-	-	-	<40>	
D17	B地区 え-3	西側調査区外	長方形	-	197	<140>	22	角釘 (鉄製品 5)



第2表 土抗一覧表②

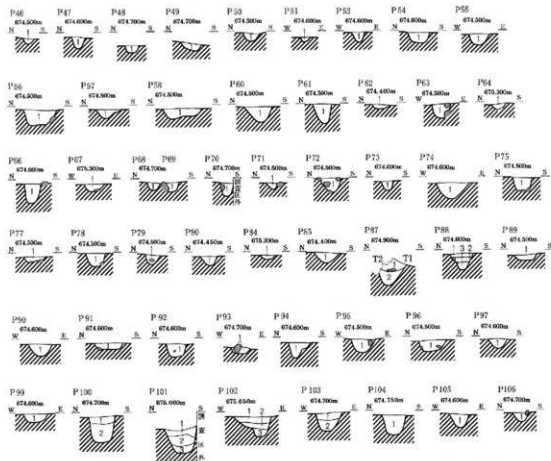
遺構名	検出位置	産出陶器	平面形態	長軸方位	長軸長 (m)	短軸長 (m)	埋没深 (cm)	備考 (出土・遺物など)	
D18	B地区 う-1・5	内側調査区外	方形	-	183	<168>	33	陶器灰釉鉢(北濠)・陶磁器 47) 磁器染付碗(伊万里)・陶磁器 54) 土器(中世)	
D19	B地区 う-4	東端トレンチに切られる。D138に切られる。	-	-	132	<140>	42	かわらけ(ISC-16C)・かわらけ3) 土器(中世) 古瀬戸焼燗飯蓋(陶磁器11)	否
D20	B地区 か-8-11	M2を切る。	円形	-	80	78	14		
D21	B地区 お-9・10	D28を切る。	方形	-	142	140	86	黒門(下段)・石磨鉢・石臼・黒白13)	
D22	B地区 え-お-8・9	北東側調査区外 カクラン・D151に切られる。	-	N-24'-W	<108>	108	12		
D23	B地区 か-10		円形	N-11'-W	180	125	95		
D24	B地区 う-9	南東側調査区外 D35を切る。	円形	-	180	<98>	30	かわらけ(ISC-A-16C)・かわらけ5) 鉄器(鉄製品 43) 土器(中世)	
D25	B地区 え-8	北側調査区外 カクランに切られる。	円形	N-88'-E	<44>	<42>	28		
D26	B地区 お-か-9	北東側調査区外 D21に切られる。	不整形	-	<183>	<162>	49	大宮灰釉鉢(陶磁器 25) かわらけ(中世) 土器(中世)	
D27	B地区 お-か-9	D29を切る。	楕円形	N-40'-W	117	60	22		
D28	B地区 う-8	P52・P50・P98に切られる。	円形	N-63'-E	148	<137>	20	不明古銭(古銭 13)	
D29	B地区 う-8	D27に切られる。	不整形	-	<16>	62	22		
D30	B地区 い-8		楕円形	N-51'-E	84	71	21		
D31	B地区 い-7		長方形	N-89'-W	77	54	31	土器(中世)	
D32	B地区 い-う-7	D36を切る。P76に切られる。	楕円形	N-73'-E	112	79	22.5	不明古銭(銅貨・不明古銭類 11) 土器(中世)	
D33	B地区 う-7・7	D36を切る。Talに切られる。	長方形	N-40'-W	<164>	95	45.5	大宮灰釉鉢(陶磁器 19) 陶器灰釉鉢(青地)・陶磁器 88) 陶器灰釉せじ茶碗(瀬戸・美濃)・陶磁器40) 土師灰釉鉢(近世以降)	
D34	B地区 い-う-7	カクラン・Talに切られる。	楕円形	N-31'-W	138	68	40	かわらけ(中世) 土器(中世)	
D35	B地区 う-8・9	南東側調査区外 D24に切られる。D37・P82を切る。	台形	N-74'-E	260	<182>	64	土器(中世)	
D36	B地区 う-7	D32・D33・Talに切られる。	方形?	-	<160>	<68>	60	磁器 染付碗(伊万里) (近世)	
D37	B地区 う-え-8・9	D35・P50・P82に切られる。	不整形	N-32'-W	<152>	120	21.5	かわらけ(近世)・かわらけ20) 石臼(下段)・石磨鉢・石臼・黒白5)	
D38	B地区 い-4	東側調査区外。D19を切る。 トレンチ・T1・T2に切られる。	不明	-	-	-	12	かわらけ(中世) 土器(中世)	
D39	B地区 い-7		円形	-	165	100	71	白磁(白壳)皿(中国) (陶磁器 8)	
D40	B地区 う-5・6	西側調査区外 D63に切られる。	不明	-	300	<80>	31.5	かわらけ(ISC-16C)・かわらけ2) 古瀬戸・美濃大井系燗飯蓋(陶磁器 13)	
D41	B地区 い-4	東側調査区外 トレンチ・D38に切られる。	不明	-	-	-	<34>		

## 3. ビット

ビットはA地区で45個、B地区で63個が検出された。出土した遺物や中世土抗の覆土との類似性からA地区はすべて中世の所産と思われる。B地区では、近世と中世ビット覆土の見極めはできなかった。B地区の中世ビット群は、グリッド5～9列の範囲で堀址(M1・M2)から11m離れた位置か

第3表 ビット一覧表①

遺構名	地所位置	遺構関係	平面形態	規模 (cm) 長径×短径×高さ	土	備 考 (出土・遺物など)
P1	A地区 こ-15	-	円形	16 × 16 × 18	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物わずかに含む。
P2	A地区 き-14	D4を穿る。	方形	29 × 20 × 21	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物わずかに含む。
P3	A地区 き-14	-	方形	32 × 30 × 33	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。
P4	A地区 こ-14	-	方形	32 × 31 × 27	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。
P5	A地区 こ-14	-	楕円形	57 × 33 × 11	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物含む。粘土の砂粒 (褐色土10YR4/6) 含む。
P6	A地区 き-11	カタランに切られる。	円形	<26> × <23> × 21	黒褐色土 (10YR2/2)	炭化物含む。粘土の砂粒 (褐色土10YR4/6) 含む。
P7	A地区 き-14	カタランに切られる。	円形	<24> × <22> × <18>	黒褐色土 (10YR2/2)	炭化物わずかに含む。粘土の砂粒含む。
P8	A地区 き-11	-	方形	24 × 19 × 18	黒褐色土 (10YR2/2)	炭化物わずかに含む。粘土の砂粒含む。
P9	A地区 き-14	-	方形	21 × 21 × 15	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物わずかに含む。粘土の砂粒含む。
P10	A地区 き-14	-	方形	22 × 17 × 16	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物わずかに含む。粘土の砂粒含む。
P11	A地区 き-14	-	方形	27 × 22 × 14	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物わずかに含む。粘土の砂粒含む。
P12	A地区 き-14	-	方形	28 × 20 × 24	黒褐色土 (10YR2/3)	粘土の砂粒多く含む。



第9図 ビット上層実測図

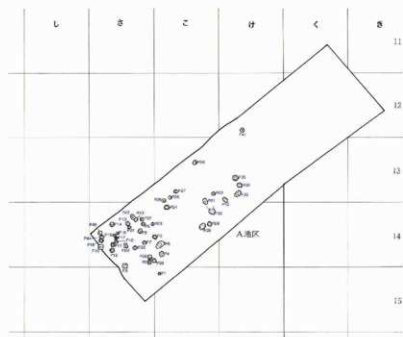
0 (1:80) 2m

第4表 ビット一覧表②

選別系	採石位置	産種関係	平面形状	幅尺 (cm) 長径×短径×深さ	種 類	備 考 (出上・運搬など)
P13	A地区 5-14	D13を切る。	円形	27 × 24 × 22	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P14	A地区 5-14	D13を切る。	円形	26 × 25 × 17	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P15	A地区 5-14	D13を切る。	円形	21 × 20 × 24	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P16	A地区 5-14	D3を切る。	方形	21 × 18 × 15	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P17	A地区 5-14	D3を切る。	楕円形	22 × 12 × 10	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P18	A地区 5-14	D13を切る。	方形	24 × 22 × 18	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P19	A地区 5-11		方形	30 × 30 × 23	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P20	A地区 5-14		円形	28 × 24 × 21	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P21	A地区 5-14		方形	20 × 14 × 9	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P22	A地区 5-14	カクランに切られる。	方形	<20> × <17> × <13>	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P23	A地区 5-14		方形	20 × 18 × 14	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P24	A地区 5-14	D3を切る。	方形	30 × 26 × 22	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P25	A地区 5-13	D12を切る。	方形	21 × 20 × 17	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P26	A地区 5-13		方形	20 × 16 × 27	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P27	A地区 5-13		方形	22 × 16 × 11	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P28	A地区 5-14		方形	44 × 30 × 13.5	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P29	A地区 5-14		方形	27 × 23 × 26	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P30	A地区 5-14	カクランに切られる。 D6を切る。	方形	39 × 34 × 19.5	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P31	A地区 5-14		方形	33 × 24 × 16.3	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P32	A地区 5-13	D6を切る。	方形	20 × 20 × 7.5	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P33	A地区 5-13		楕円形	46 × 27 × 21	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P34	A地区 5-13	D8を切る。	方形	31 × 25 × 9	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P35	A地区 5-13	D8を切る。	円形	26 × 32 × 24	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P36	A地区 5-13	D7を切る。	円形	24 × 24 × 12	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P37	A地区 5-14	D12を切る。	方形	22 × 16 × 19	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P38	A地区 5-14		方形	22 × 22 × 12	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P39	A地区 5-14	D4を切る。	方形	26 × 23 × 27	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。
P40	A地区 5-13	D6と重複する (新田小町)。	楕円形	34 × 16 × 18	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。
P41	A地区 5-12		方形	21 × 19 × 21	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物・焼土少量含む。
P42	A地区 5-14	P31に切られる。 D12を切る。	方形	20 × <18> × 15	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物・焼土少量含む。
P43	A地区 5-14	D12・P42を切る。	方形	32 × 21 × 27	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物・焼土少量含む。
P44	A地区 5-14	D13を切る。	円形	30 × 25 × 41	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。
P45	A地区 5-14	D13を切る。	円形	25 × 25 × 50	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。
P46	B地区 5-9		円形	30 × 33 × 13.0	黒褐色土 (10YR2/2)	砂質土。炭化物少量含む。
P47	B地区 5-8		楕円形	40 × 28 × 28	黒褐色土 (10YR3/1)	砂質土。小石少量含む。

第5表 ビット一覧表③

遺構名	積川位置	基礎形状	平面形状	幅段 (cm) 長径×短径×深さ	備 考	備 考 (出土・遺物など)
P48	B地区 え-9		楕円形	36 × 28 × 16	黒褐色土 (10YR2/2)	炭化物・小石含む。
P49	B地区 え-8		楕円形	52 × 38 × 21	黒褐色土 (10YR2/2)	炭化物・小石含む。
P50	B地区 え-8-9	D37を切る。	楕円形	44 × 32 × 22	黒褐色土 (10YR2/2)	小石含む。
P51	B地区 う-8		楕円形	28 × 17 × 11	黒褐色土 (10YR2/2)	小石含む。
P52	B地区 え-8	P90に切られ、D28を切る。	円形	38 × 38 × 22		
P53	B地区 い-8		円形	39 × 34 × 23.5	黒褐色土 (10YR2/2)	炭化物・小石含む。
P54	B地区 い-8		楕円形	52 × 44 × 33	黒褐色土 (10YR2/2)	炭化物微量含む。
P55	B地区 い-8	P85を切る。 T1に切られる。	楕円形	70 × 50 × 28	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。
P56	B地区 い-5-6	T1に切られる。	楕円形	80 × 42 × 38	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。 土層 (中層)
P57	B地区 い-5	P65を切る。 T1に切られる。	楕円形	62 × 46 × 26	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。 土層 (中層)
P58	B地区 う-6	T1に切られる。	不整形	128 × 80 × 33.5	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。
P59	欠					
P60	B地区 い-6	トレンチ・T1に切られる。 P65を切る。	楕円形	<67> × <50> × 38	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。
P61	B地区 い-6	T1を切る。 トレンチに切られる。	円形	49 × 44 × 45	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。 焼土粒子・炭少量含む。 磁器片付属 (伊方県) (近世)
P62	B地区 い-6	T1に切られる。	楕円形	60 × 20 × 11	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。
P63	B地区 う-5	D40を切る。 T1に切られる。	円形	48 × 36 × 41.5	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。 焼土粒子・炭少量含む。
P64	B地区 い-5	トレンチに切られる。	楕円形	<35> × <26> × <14>	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。
P65	B地区 う-5	T1・P57に切られる。	円形	66 × <34> × 35		
P66	B地区 い-5	T1・トレンチに切られる。	円形	<50> × <36> × 48	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。 焼土粒子・炭少量含む。
P67	B地区 い-5	トレンチに切られる。	円形	<48> × <44> × <20>	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。 焼土粒子・炭少量含む。
P68	B地区 い-8		楕円形	40 × 24 × 18	黒褐色土 (10YR2/2)	砂質のローム粒子微量含む。
P69	B地区 い-8		円形	38 × 37 × 23	黒褐色土 (10YR2/2)	砂質土。 小石・炭化物微量含む。
P70	B地区 い-8		円形	27 × 21 × 32	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。 小石・炭化物微量含む。
P71	B地区 い-6	トレンチに切られる。	円形	<24> × <24> × <13>	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。
P72	B地区 い-6-7		円形	58 × 47 × 35	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。 焼土粒子・炭少量含む。
P73	B地区 い-7		円形	29 × 26 × 22.5	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。
P74	B地区 い-7		円形	80 × 76 × 41	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。 焼土粒子・炭少量含む。
P75	B地区 い-5	トレンチに切られる。	円形	<47> × 44 × 30	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。
P76	B地区 い-7	D32を切る。	円形	36 × 32 × 10.5		
P77	B地区 い-6	T1を切る。	円形	47 × 44 × 13.5	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。
P78	B地区 い-6	トレンチに切られる。	円形	<41> × <40> × <31>	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。
P79	B地区 い-6	B地区門扉を切る。 T1を切る。	楕円形	49 × 31 × 27	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。 焼土粒子・炭少量含む。
P80	B地区 う-6	T1を切る。	楕円形	64 × 44 × 22.5	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。 焼土粒子・炭少量含む。
P81	B地区 い-8		円形	21 × 23 × 16		



第6表 ビット一覧表④

遺構名	検出位置	成層関係	平面形態	規模 (cm) 長径×短径×厚さ	覆土	備考 (出土・遺物など)	
P82	B地区 う-9	D37を切り、D33に切られる。	楕円形	50 × 36 × 43		かわらけ (15C~16C) (かわらけ1)	
P83	B地区 う-8		楕円形	50 × 38 × 16			
P84	B地区 え-3		円形	38 × 36 × 13	黒褐色土 (10YR2/3) 褐色土 (10YR4/6) の小ブロックを含む。		
P85	B地区 い-6	T1・P56・P60に切られる。	楕円形	60 × 46 × 31	黒褐色土 (10YR2/2)	粘質土。 土上種子・炭少量含む。	
P86	B地区 い-5	南東調査区外 トレンチに切られる。	楕円形	<38> × <22> × <45>			
P87	B地区 う-5	T1・T2に切られる。	楕円形	<70> × <50> × <49>		かわらけ (遺物) (かわらけ10)	
P88	B地区 え-8		楕円形	68 × 31 × 40	1.黒褐色土 (10YR3/1) 2.黒褐色土 (10YR3/4) 3.黒褐色土 (10YR2/3)	砂質土。炭化物微量含む。 砂質土。5cm大の礫少量含む。 砂質土。3cm大の礫少量含む。	
P89	B地区 え-9		円形	52 × 52 × 13	黒褐色土 (10YR2/3)	砂質土。小石少量含む。	
P90	B地区 え-8	P52・D28を切る。	楕円形	72 × 37 × 28	黒褐色土 (10YR2/3)	砂質土。 炭化物・礫少量含む。	
P91	B地区 え-8		楕円形	70 × 60 × 15	黒褐色土 (10YR2/3)	砂質土。小石含む。	
P92	B地区 え-8	カタランに切られる。	楕円形	<35> × <26> × 33	黒褐色土 (10YR2/3)	砂質土。 炭化物微量含む。	
P93	B地区 え-8		円形	48 × 46 × 16	黒褐色土 (10YR2/3)	砂質土。小石含む。	
P94	B地区 え-8		楕円形	54 × 31 × 39	黒褐色土 (10YR2/3)	砂質土。炭化物微量含む。	
P95	B地区 う-8		楕円形	86 × 58 × 31	黒褐色土 (10YR2/2)	小石含む。	
P96	B地区 う-8		楕円形	67 × 56 × 33	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物・小石含む。	土層 (中層)
P97	B地区 う-8		楕円形	74 × 41 × 23	黒褐色土 (10YR2/2)	炭化物含む。	
P98	B地区 え-8	D28を切る。	円形	32 × 30 × 11			
P99	B地区 い-8		楕円形	60 × 32 × 21	黒褐色土 (10YR2/2)	炭化物・小石含む。	
P100	B地区 い-7		楕円形	81 × 68 × 71	1.黒褐色土 (10YR2/3) 2.黒褐色土 (10YR2/2)	小石微量含む。 炭化物微量含む。	かわらけ (15C後半以降) (かわらけ18)
P101	B地区 あ-7	南東調査区外 P109を切る。	円形	83 × 84 × 61.5	1.黒褐色土 (10YR2/3) 2.黒褐色土 (10YR2/2) 3.黒褐色土 (10YR3/2)	炭化物微量含む。 炭化物・小石含む。 小石含む。	かわらけ (15C末~16C) (かわらけ19) 土層 (15C中層) (土層等3) かわらけ (中層) 土層 (中層)
P102	B地区 い-7		楕円形	118 × 96 × 45.5	1.黒褐色土 (10YR2/3) 2.黒褐色土 (10YR2/2) 3.黒褐色土 (10YR2/3)	小石微量含む。 小石・炭化物含む。 炭化物含む。	土層 (中層)
P103	B地区 い-7		円形	70 × 64 × 48	1.黒褐色土 (10YR2/2) 2.黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。 炭化物・小石を含む。	土層 (中層)
P104	B地区 あ-7		円形	65 × 62 × 48	黒褐色土 (10YR2/2)	炭化物・小石含む。	
P105	B地区 い-7		楕円形	60 × 48 × 29.5	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物・小石含む。	
P106	B地区 あ-7		円形	48 × 42 × 22	黒褐色土 (10YR2/3)	小石含む。	
P107	B地区 あ-い-7		楕円形	72 × 60 × 40.5			
P108	B地区 あ-い-6	P79に切られる。T1 を切る。	楕円形	100 × 71 × 51			
P109	B地区 あ-7	南東調査区外 P101に切られる。	楕円形	<118> × <36> × 42			

ら検出された。ピットの形態は方形・円形・楕円形である。A地区の45個は方形が基調で、黒褐色の覆土に炭化物を含んでいる。P28・38~40・43からかわらけ・土鍋・中世陶器片が出土した。B地区のT1・T2号集石址付近から近世のピットP61・77・79・80・87・108が検出された。P56・57・75・82・96・101・102・103からは、かわらけ・土鍋・中世陶器片が出土している。

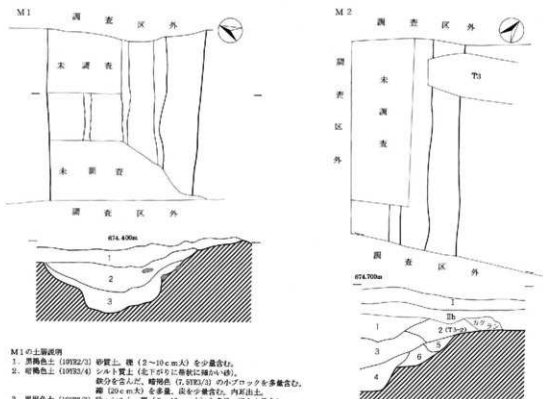
#### 4. 堀址

B地区2地点より溝状遺構（調査区北側M1号、西側M2号）が検出された。いずれも、寛延4年（1751）「信州佐久郡野沢原内村図」の絵図に描かれている土塁墨線に一致するとみられ、堀址といえよう。土塁に関する遺構・痕跡は、確認できなかったが、堀址と同時期あるいは堀址築造後の近い時期の遺構が検出されなかった空間に土塁の存在を想定できようか。

#### M1号堀址

A地区の北端う・え-2グリッドから検出された。重複遺構はない。内側（野沢館跡主郭側）に約7m離れて中世（15～16世紀）のD18・19・38・41土抗が、近接して時期不明のP84・D16・D17がある。外側4m内に、他の遺構は確認されなかった。

幅3.5m～3.9m深さ1.76mを測る。底面は外側寄りが15cmほど窪んでおり、内側にテラス状の平坦



#### M1の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 砂質土、礫 (2～10cm大) を少量含む。
2. 暗褐色土 (10YR3/4) シルト質土 (北下がり) に礫 (5～10cm大) を含む。暗褐色 (7.5YR3/3) の小ブロックを多量含む。礫 (20cm大) を多量、炭を少量含む。内耳出土。
3. 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・シルト・礫 (5～10cm大) を多量、炭を少量含む。

#### M2の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/3) シルトブロック含む。5cm大の礫を多量、20cm大の6を少量含む。炭分を含む。内耳・6層出土。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 礫 (5～10cm大) を含む。
3. 褐色土 (10YR4/1) 砂質。粒子細い。シルトブロック・炭分を含む。5cm以下の礫を多量、10cm大の礫を少量含む。
4. 黒色土 (10YR1.7/1) シルト。水性堆積層。5cm以下の礫を多量含む。
5. 黒褐色土 (10YR3/2) 砂質土。6層をブロック状に含む。5cm以下の礫を含む。
6. 灰黄褐色土 (10YR6/2) シルト質土。5cm大の礫を少量含む。炭分を含む。

0 (1:100) 2m

第11図 M1・M2号堀址実測図

面がある。底面から垂直に近く立ち上がり、外側は50cm内側は80cmの所から緩やかに上端へと向かう形で、斜面途中に傾斜変換点がある。

野沢館跡主郭の堀址の調査でみられた堀の立ち上がり部分に敷き詰められた礫は、本遺構では認められなかった。遺構上端は、内側が60cmほど外側より高くなっている。

全体層序Ⅱ層の攪乱整地層（プラスチック製の籐・ガラス片出土）はT1号集石址付近では20～30cmの深さに対して、D18・19号土坑から本址にかけては60cmと深く及んでいる。この整地層は地山まで達していて土塁の痕跡は窺えない。また、覆土1層は、2・3層では堀が埋没した後の堆積で堀の内側から外側まで覆っている。

覆土2・3層は水性堆積土とみられ、炭化物が少量、円礫（5～20cm大が主、50cm大もある）が多量に出土した。2層はシルト質土で帯状に細砂粒が北側下がりにもみられた。3層はシルト質土・砂層・小礫が互層状態でレンズ状に堆積している。

遺物は3層から第15図18の土銅片（中世）・第16図1・4の龍泉窯青磁碗（12世紀後半・13世紀）が、2層から第15図14・15・19の土銅片（15世紀後半から16世紀前半）・第16図31の常滑甕片（中世）が出土した。

#### M2号堀址

B地区の西端きく-10・11グリッドから検出された。検出幅2.7m深さ1.50mを測る。重複遺構のT3号集石址とD20号土坑に一部壊されている。西側は、用水路築造の折りであろうか、破壊されている。また、内側（野沢館跡主郭側）に約4.5m離れて中世（15～16世紀）のD26号土坑が、約3.5m離れて時期不明のD14・D23号土坑がある。

底面は西側が完掘できていないが平坦な底面から急に立ち上がり、斜面途中の傾斜変換点から緩やかに上端へと向かう。野沢館跡主郭の堀址の調査でみられた堀の立ち上がり部分に敷き詰められた礫は、本遺構ではM1号堀址同様認められなかった。

全体層序Ⅱ層の攪乱整地層（プラスチック製の籐・ガラス片出土）はT3号集石址付近では50cmの深さまで及んでいる。この整地層は一部地山まで達している。また、T3号集石址の下部にもみられるM2号の覆土2層（近代・現代の陶磁器を含む）形成時に地山まで及んでおり土塁の痕跡は窺えない。

覆土は、5cm大の礫を含むシルト質土と砂質土の5・6層の後4層が堆積している。4層は水性堆積層で5cm以下の礫を多量に含んでいる。次のやはり水性堆積の3層では堀が埋没する。その後2層形成時に3層の上部が削られている。この2層も用水に関連すると見られる1層により一部削られている。

遺物は2層から第16図38の瀬戸・美濃陶器灰釉皿（18世紀）・第16図53の伊万里磁器染付碗（近世）が、1層から第14図14のかわらけ片（15世紀後半以降）・第15図2～4の土銅片（15世紀中頃）・第15図9・13の土銅片（15世紀後半から16世紀前半）が出土した。

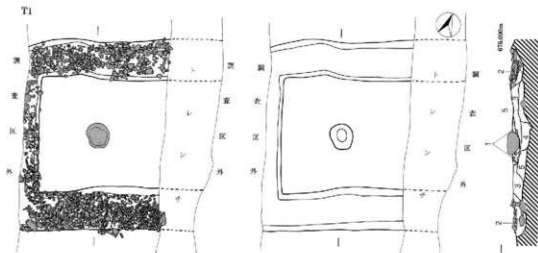
#### 5. 集石址

B地区より3基が検出された。浅い掘り方に大小の自然礫が敷き詰めてあった。

#### T1号集積址

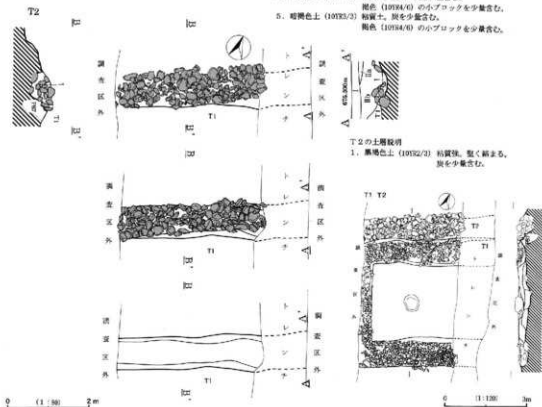
本址の重複関係はD38・D40号土坑・P55～58・60・62・63・85・87より新しく、T2号集石址・P61・77・79・80・108より古い。遺構の東西部分が調査区外に伸びているが、東側の断面では北辺と南辺が東へ続いており、形態は長方形になろう。長辺はN-65°-Eを示す。掘り方は、南北4.6m、検出された東西5m深さ40cm前後を測る。この掘り方を録取するような幅1m深さ30cm前後の掘り込みに5～15cm大の礫を敷き詰め、隙間には粘質土を詰めている。この内側には、整地面のような堅く締まった暗褐色土がみられ、礫に接する面は特に堅い。西辺よりの円形窪みには、粘質土で囲われた安山岩礫が置かれていた。径60cm厚さ30cmで重量があり上面は平坦で礎石とみられ、長方形の集石は基





T1の土層説明

1. 暗褐色土 (10184/3) 粘質土、堅い。
2. 粘質土。
3. 暗褐色土 (10183/3) 灰を少量含む、堅い。
4. 黒褐色土 (10182/3) 粘質土、礫・灰を少量含む。  
褐色 (10184/6) の小ブロックを少量含む。
5. 暗褐色土 (10183/3) 粘質土、灰を少量含む。  
褐色 (10184/6) の小ブロックを少量含む。



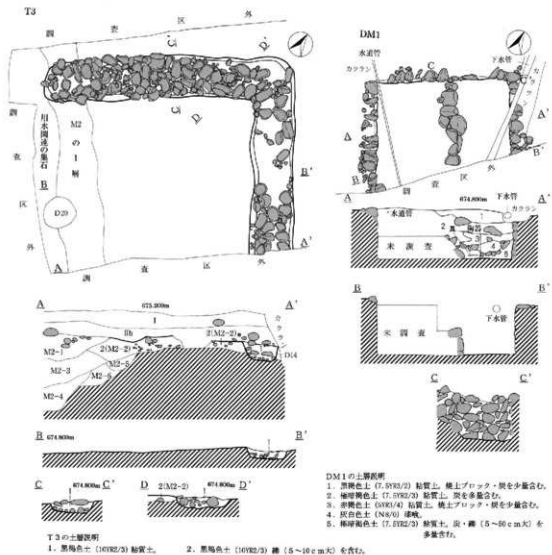
T2の土層説明

1. 黒褐色土 (10182/3) 粘質土、堅く締まる、  
灰を少量含む。

第12図 T1・T2号集石址実測図

礎固めであろうか。

遺物は、礎内から第14図12のかわらけ（15世紀後半以降）・第16図24の瀬戸・美濃灰釉皿（16世紀）が出土し、整地層から第14図17のかわらけ（15世紀後半以降）、第16図7の青磁茶筒底皿（16世紀）、16-28の瀬戸・美濃灰釉折縁皿（16世紀）、16-30・36の常滑甕（中世）、16-37の瀬戸・美濃灰釉皿（18世紀）、16-49の伊万里染付陶胎碗（18世紀後半～19世紀前半）が出土した。また、第18図6・第19図9の石臼、19-12の茶臼、第20図2・4の四石、第21図2・5の砥石、第22図2・11・16の角釘、第24図8・9・10の寛水通宝が整地層から出土した。出土遺物の時期は15世紀から18世紀・19世紀までみられる。遺構の重複関係では中世の土抗・ピットと近世のピットより新しく、近世のピットより古い。



第13図 T3号集石址・DM1号地下室実測図

## T2号集石址

本址はT1号集石址と接し、東西に平行している。本址はD38号土坑・P87より新しく、T1号集石址より古い。遺構の東西部分が調査区外に伸びている。検出された東西長は5mを測る。T1号と同様に幅1m深さ40cm前後の掘り込みにT1号より大きめの15～20cm大を主とする礫を敷き詰めている。礫の間には粘質の強い黒褐色土を詰めている。堅く締まっている。

遺物は、黒褐色土内から青磁碗（15世紀前半）が出土した。

別遺構として扱ったが、本遺構とT1号の北辺がぶれることなく平行し、集石の状況も酷似しており、同一の遺構とも考えられる。

## T3号集石址

B地区の西端か・き-10・11グリッドから検出された。重複遺構は、M2号堀址・D23号土坑より新しくD14号土坑より古い。西側は用水路改良・補修の折りであろうか、破壊されていて、遺構が続くのか不明である。遺構の南側部分は調査区外に伸びている。東辺は現用水と平行している。

検出された範囲での形態はL字形で、規模は東西長5.6m・南北長4.0mを測る。幅1m深さ30cm前後の掘り込みにT1号と同じく礫が敷き詰められていた。上部に30～50cm大の大きめの自然礫、下部に5cm前後の自然礫、隙間に粘質の強い黒褐色土を充填していた。2層の整地層とみられる黒褐色土は、北辺付近内側と南側に残っていた。他の部分はⅡ層が及んでいて不明である。この整地層（2層）は、M2号堀址の覆土3層を一部削っている。

遺物は第18図2の石播鉢、第18図4の石臼、第21図3の砥石、第22図34の角釘、第24図17の古銭等や、第14図16のかわらけ（15世紀後半以降）、第15図16の上鍋（16世紀中頃）、第16図10の古瀬戸灰釉瓶子（14世紀前半）、41の瀬戸・美濃鉄釉碗（18世紀）が2層と礫群内から出土した。M2号堀址で2層とした土層は、本址の2層と同一であり、第16図38の瀬戸・美濃陶器灰釉皿（18世紀）、第16図53の伊万里磁器染付碗（近世）が出土している。

## 6 地下室

DM1号地下室は、B地区え-9・10グリッドから検出された。下水管と水道管が横断している。南側が調査区外に伸びているが僅かに南西の角が確認できた。下水管と水道管が凍結する恐れがあり、また、破損を回避したため完掘していない。室内壁の東西長3.2m南北長2.6m確認面からの深さ1.2m（Ⅲ層上面から掘り込まれていると考えられ、当初は1.5mぐらいか？）を測る。室内は、全体層Ⅱ層と同様の極暗褐色土で埋められていた。近現代の瓦・陶磁器類が多量に含まれる。長方形の掘り方の中に自然礫（自然礫の割石も含む）を積み上げて、礫の間には粘質土と漆喰で埋めている。横目地は比較的通っている。底石は敷かれていなかった。中央には南北に底面から60cmほど大きな礫が積まれていた。段差を設けたのか、仕切石であろうか。

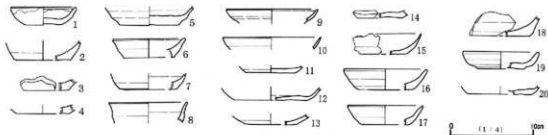
遺物は多量の近現代瓦・陶磁器類の他に、第16図26・42・45・51・52・73の陶磁器や第23図の角釘とタンスの把手が出土した。

## 第2節 遺物

かわらけ（第14図）・土鍋（第15図）・瓦質土器（第15図）・陶磁器（第16図）・須臾器（第17図）・土師質土器（第17図）・石播鉢（第18図）・石臼（第18・19図）・茶臼（第19図）・凹石（第20図）・砥石（第21図）・石製品（第21・25図）・鉄製品（第22・23図）・古銭（第24図）が出土した。（かわらけ・土鍋・陶磁器類一覧表の器種・産地・年代は、市川隆之氏のご教示による。）

かわらけ

図示できたのは20点で全体の器形が把握できたものは5点ある。他に58点の小片が出土した。土抗・ピット・集石址・堀址・検出面から出土し、A地区からは2点のみ、B地区ではお・か-10、う-9、



第14図 かわらけ実測図

第7表 かわらけ一覧表

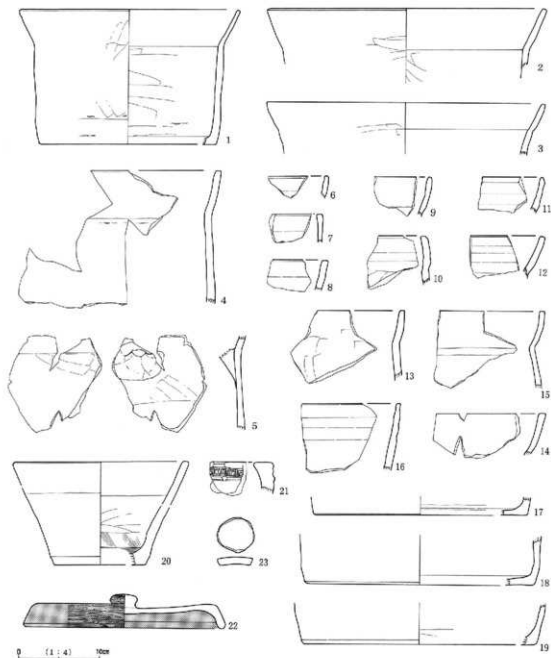
No	器種	法量 (cm)			残存	調型	年代	備考	出土位置
		口径	底径	高さ					
1	かわらけ	(8.2)	(4.4)	2.2	口縁1/3 底部1/2	内 ココナテ 外 ココナテ→回転糸切り(右)	15C~16C	口唇部に横付番	PR2 No1
2	かわらけ	-	(7.1)	<2.4>	底部1/5	内 ココナテ 外 ココナテ→回転糸切り(左)	15C~16C		D10
3	かわらけ	-	-	<1.3>	底面破片	内 ココナテ 外 ココナテ→回転糸切り	15C~16C		D19
4	かわらけ	-	(6.6)	<1.1>	底縁1/4	内 ココナテ 外 ココナテ→回転糸切り	15C~16C		お-10
5	かわらけ	-	(7.5)	<2.3>	底縁1/3	内 ココナテ 外 ココナテ→回転糸切り後 ヘラナデ	15C末~16C		D24
6	かわらけ	(9.0)	(6.2)	2.3	口縁1/10 底縁1/5	内 ココナテ 外 ココナテ→底部糸切り	15C末~16C		P101
7	かわらけ	-	(7.0)	<2.0>	底縁1/6	内 ココナテ 外 ココナテ→回転糸切り	15C末~16C	内面に横付番?	D2W・P40
8	かわらけ	(9.7)	-	<2.5>	口縁1/10	内 ココナテ 外 ココナテ	15C末~16C		う-7
9	かわらけ	(11.2)	-	<1.7>	口縁1/12	内 ココナテ 外 ココナテ	15C後半以降	胎土 確認されている	お-10
10	かわらけ	(12.0)	-	<1.5>	口縁1/10	内 ココナテ 外 ココナテ	15C後半以降	胎土 確認されている	AKウカラン
11	かわらけ	-	(9.2)	<0.9>	底縁1/4	内 ココナテ 外 ココナテ→回転糸切り	15C後半以降	胎土 確認されている	お-10
12	かわらけ	-	(8.8)	<1.6>	底縁1/5	内 ココナテ 外 ココナテ→回転糸切り(左)後 回転ヘラナデ	15C後半以降	胎土 確認されている	T1 N内
13	かわらけ	-	(6.3)	<1.2>	底縁1/6	内 ココナテ 外 ココナテ→底縁ヘラナデ	15C後半以降	胎土 確認されている	後田山
14	かわらけ	-	-	<0.9>	底面破片	内 ココナテ 外 ココナテ→底縁ヘラナデ	15C後半以降	胎土 確認されている	M2 1層
15	かわらけ	-	-	2.5	口縁一 部残存	内 ココナテ 外 ココナテ →底縁糸切り後ヘラナデ	15C後半以降	胎土 確認されている	D2 階 P2
16	かわらけ	(10.2)	(6.5)	2.5	口縁1/12 底縁1/8	内 ココナテ 外 ココナテ→底縁糸切り	15C後半以降		お-10
17	かわらけ	(9.2)	(5.8)	2.3	口縁一 部残存	内 ココナテ 外 ココナテ→底縁糸切り	15C後半以降		T1 3層
18	かわらけ	-	-	<2.5>	底縁一 部残存	内 ココナテ 外 ココナテ→底縁糸切り	15C後半以降	ムコみ塚に横付番	P100
19	かわらけ	(8.4)	(5.7)	2.1	口縁1/5 底縁1/2	内 ココナテ 外 ココナテ→底縁糸切り	近世(18C?)	横貫	P87
20	かわらけ	-	(8.0)	<1.1>	底縁1/8	内 ココナテ 外 ココナテ→底縁ヘラナデ	近世(18C?)	横貫	D27

あ・い-7、う-4・5グリッド内から検出された。精選された胎土のもの9~15と土鍋に似た砂粒を含みザラザラしたもの1~8・16~17がある。19・20は硬質なものである。1・6・8・9・15・16・17のように底部より体部が内湾気味に短く立ち上がるものが多い。1・7・18の内面には煤の付着があり灯明皿としての使用が考えられる。19・20が18世紀代、1~18が15~16世紀に納まろう。土鍋等

いわゆる内耳土鍋が多数出土した。図示したのは19点で、第15図1が1点だけ全体の器形が把握できる。出土破片は、総数で340点ある。土抗が102点(A地区83点・B地区19点)、堀址が54点、ピッ

トが15点、堅穴状遺構が4点、集石址が12点、A地区グリッドが35点、B地区グリッドが98点であった。M2号堀址の外側にあたるA地区の上杭とその周辺が、122点を数え集中して出土している。B地区では、グリッドお-17、い・う-6・7、う-8に多い。

形態は、いずれも平底で口縁部外反するもの第15図1～4と口縁部内湾ぎみのもの9～15がある。



第15図 土鍋等実測図

第8表 上銅等一覧表

No	器種	寸 法 (cm)			残存	注 意	年 代	備 考	出土位置
		口径	底径	器高					
1	内耳	(27.2)	(21.8)	16.3	口縁一部 底径1/7	内 口縁ヨコナデ→胴部から底部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ→底径外ラケズリ ナデ・底径ヘラケズリ	15C中頃		D3 接目面 D13 A区カクラン
2	内耳	(34.2)	-	<8.1>	口縁1/5	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	15C中頃		M2 1層
3	内耳	(34.0)	-	<6.3>	口縁1/11	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	15C中頃		F101
4	内耳	-	-	<16.1>	口縁破片	内 胴部ナデ→口縁から胴部上下ヨコナデ 外 胴部ナデ→口縁ヨコナデ	15C中頃		M2 1層
5	内耳	-	-	-	破片	内 (ヘラ)ナデ 外 (ヘラ)ナデ	15C中頃		M2 1層
6	内耳	-	-	<2.7>	口縁破片	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ	15C後半 ～16C前半		D7 S16
7	内耳	-	-	-	口縁破片	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ	15C後半 ～16C前半		P80
8	内耳	-	-	-	口縁破片	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ	15C後半 ～16C前半		D12 D36
9	内耳	-	-	-	口縁破片	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ	15C後半 ～16C前半		M2 1層
10	内耳	-	-	-	口縁破片	内 口縁ヨコナデ→胴部(ヘラ)ナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部(ヘラ)ナデ	15C後半 ～16C前半		D4
11	内耳	-	-	-	口縁破片	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ	15C後半 ～16C前半		D7 S16
12	内耳	-	-	-	口縁破片	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ	15C後半 ～16C前半		D6 W1R
13	内耳	-	-	<8.6>	口縁破片	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	15C後半 ～16C前半		M2 1層
14	内耳	-	-	<5.1>	口縁破片	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ	15C後半 ～16C前半		M1 2層
15	内耳	-	-	<9.5>	口縁破片	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	15C後半 ～16C前半		M1 2層
16	内耳	-	-	<8.1>	口縁破片	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ	16C中頃		T3
17	内耳	-	(26.3)	<2.3>	底径1/5	内 ナデ 外 胴部ヨコナデ・底径ヘラケズリ	中世		M2 1層
18	内耳	-	(27.7)	<6.0>	底径1/6	内 ナデ 外 胴部ヨコナデ・底径ヘラケズリ	中世		M1 2層
19	内耳	-	(28.4)	<5.0>	底径1/6	内 ナデ 外 胴部ナデ・底径ヘラケズリ	中世		M1 2層
20	鉢鉢	(21.6)	(11.2)	12.5	口縁1/8 底径1/5	内 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ・ 胴部ナデから底径1/11 外 口縁ヨコナデ→胴部ナデ・底径ヘラケズリ・ 底径外ラケズリ	中世	在産品	D3 S16・N16 D12 W1R
21	火鉢	-	-	<3.8>	口縁一部 残存	内 ヘラミガキ 外 ヘラミガキ	中世	外面に古文を押 捺する。	え-10
22	蓋	21.8	つまみ径 3.4	4.1	ほぼ完形	内 ロクロナデ→還元炉で焼く。 外 ミガキ→還元炉で焼く。	元世	在産品。器底か 火消の蓋	う-7
23	土製内飯	長 4.2	巾 4.5	厚 1.0	完形	内 ヘラナデ 外 ナデ		内耳の二次利用	D12 E16

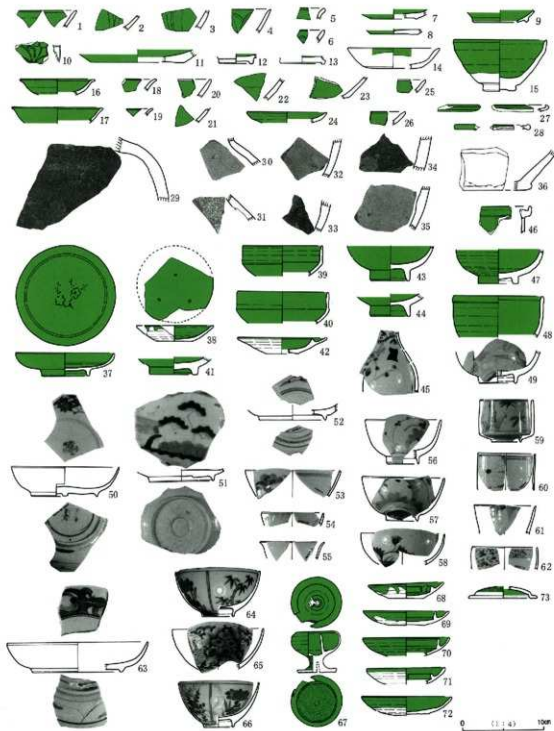
15世紀中頃・15世紀後半～16世紀前半であろう。

22は還元炉で焼かれた焙烙か火消寮の蓋でつまみを持つ。ほぼ完形で近世在地産。

#### 陶磁器類

多量の近代・現代のものを除くと、101点が出土した。中世が38点、18世紀以降の近世・幕末が63点、この内73点を第16図に示した。

中世のものとしては、輸入陶磁器の青白磁がある。青磁は1～7の碗6点皿1点の7点があり、12世紀後半～13世紀の1～4、15世紀前半～16世紀の5～7の二つの時期がある。2点の白磁皿も13世紀代と16世紀代のものである。国産品として14世紀前半～15世紀後半の古瀬戸10～15がある。器種は、



第 16 图 陶磁器実測図

第9表 陶磁器一覧表①

No	器種	法量 (cm)			残存	産地	年代	備考	出土位置
		口径	口径	器高					
1	青磁 碗	-	-	<2.1>	口縁破片	鹿島空	13C後半	内面に割花文	M1 3層
2	青磁 碗	-	-	-	破片	鹿島空	13C	外面に蓮弁文	P9
3	青磁 碗	-	-	-	破片	鹿島空	13C	外面に蓮弁文	P3
4	青磁 碗	-	-	<2.9>	口縁破片	鹿島空	13C	外面に蓮弁文	M1 3層
5	青磁 碗	-	-	-	口縁破片	中国	15C前半		T2
6	青磁 碗	-	-	-	口縁破片	中国	15C後半	外面に蓮弁文(網線)	M1
7	青磁 凸筒破皿	-	(5.6)	<1.1>	底部分存	中国	16C		T1 <4>3層
8	白磁 皿(口先)	-	(5.8)	<0.6>	底部分存	中国	18C後半		D9
9	白磁 皿	-	(6.4)	<1.6>	底部分存	中国	16C前半		D15
10	陶器 古瀬戸 灰輪破了	-	-	-	破片	瀬戸	14C前半	印花文	T3 EN
11	陶器 古瀬戸 灰輪破皿	-	(11.6)	<1.5>	底部分存	瀬戸	15C前半	ハケ塗	D19
12	陶器 古瀬戸 灰輪破折皿	-	4.2	<1.1>	底部分存	瀬戸	15C後半		P43
13	陶器 古瀬戸 灰輪破折皿	-	5.2	<1.0>	底部分存	瀬戸	15C後半	底面にヘラ型号	い-6
14	陶器 古瀬戸 鉄輪縁部小皿	(11.2)	(7.3)	2.5	口縁～ 底部分存	瀬戸	13C後半	底部分切り みこみ部残付者	P75
15	陶器 古瀬戸 鉄輪 天目茶碗	(11.2)	4.0	6.3	口縁～ 底部分存	瀬戸	15C後半		D40
16	陶器 大空 灰輪丸皿	(9.2)	-	<1.9>	口縁1/4	瀬戸・美濃	16C前		D3 灰 AK カタラン
17	陶器 大空 灰輪丸皿	(11.4)	-	<1.9>	口縁1/10	瀬戸・美濃	16C前		こ-14
18	陶器 大空 灰輪丸皿	-	-	-	口縁破片	瀬戸・美濃	16C前		D12 1区
19	陶器 大空 灰輪丸皿	-	-	-	口縁破片	瀬戸・美濃	16C前		D33
20	陶器 大空 灰輪破	-	-	-	口縁破片	瀬戸・美濃	16C前	21と同一製体か?	こ-13
21	陶器 大空 灰輪破	-	-	-	口縁破片	瀬戸・美濃	16C前	20と同一製体か?	A区 カタラン
22	陶器 大空 鉄輪・鉄輪 天目茶碗	-	-	-	破片	瀬戸・美濃	16C		D3 S区
23	陶器 大空 鉄輪・鉄輪 天目茶碗	-	-	-	破片	瀬戸・美濃	16C		D12 上区
24	陶器 大空 灰輪皿	(9.8)	-	<1.3>	口縁1/9	瀬戸・美濃	16C		T1 N層内
25	陶器 大空 灰輪皿	-	-	-	口縁破片	瀬戸・美濃	16C		D26
26	陶器 大空 灰輪皿	-	-	-	口縁破片	瀬戸・美濃	16C		DM1
27	陶器 大空 灰輪折鉢皿	-	-	<1.1>	口縁破片	瀬戸・美濃	16C末		う-7
28	陶器 大空 灰輪折鉢皿	-	-	<0.6>	口縁破片	瀬戸・美濃	16C末		T1
29	陶器 差	-	-	-	破片	常滑	中世		お-11
30	陶器 差	-	-	-	破片	常滑	中世		T1 い-6



第10表 陶磁器一覧表②

No	器 種	法 量 (cm)			残存	所 地	年 代	備 考	出土位置
		口徑	高さ	器高					
31	陶器 蓋	-	-	-	破片	常陸	中世		M1 2層
32	陶器 蓋	-	-	-	破片	常陸	中世		カクラン
33	陶器 蓋	-	-	-	破片	常陸	中世		T1
34	陶器 蓋	-	-	-	破片	常陸	中世		D3 S16
35	陶器 蓋	-	-	-	破片	常陸	中世		う-7
36	陶器 蓋	-	-	<49>	底器破片	常陸	中世		お-9
37	陶器 灰鉢皿	12.2	5.8	2.8	完存	額田・美濃	18C	みこみ部に染付	T1 う-6
38	陶器 灰鉢皿	(9.4)	4.2	1.9	口縁1/3 底器完存	額田・美濃	18C	トナシ痕あり	M2 2層
39	陶器 灰鉢せんに系鉢	(9.8)		<18>	口縁1/3	額田・美濃	18C	外面に染付	お-9・お-10
40	陶器 灰鉢せんに系鉢	(11.4)	-	<20>	口縁1/3	額田・美濃	18C		133 No3
41	陶器 灰鉢皿	-	5.8	<22>	底器完存	額田・美濃	18C		お-11
42	陶器 灰鉢灯明皿	(11.0)	(1.8)	2.0	口縁1/4 底器1/4	額田・美濃	18C		DM1
43	陶器 灰鉢灯明皿	-	5.0	<13>	底器完存	津律	18C		う-7
44	陶器 灰鉢灯明皿	-	(3.0)	<28>	底器1/3	津律	18C		う-7
45	磁器 染付器	-	-	-	破片	伊万里	18C		DM1
46	陶器 灰鉢皿	-	-	-	口縁破片	在地	18C後半	用磁石焼?	検出前
47	陶器 灰鉢皿	-	4.8	<42>	底器3/4	在地	18C後半	用磁石焼?	D18
48	陶器 灰鉢皿	(11.2)	-	<51>	口縁1/3	在地	18C後半	用磁石焼?	D33 No4
49	陶器 染付陶器	-	(4.7)	<10>	口縁1/2	伊万里	18C後半 19C前半		T1 う-6
50	陶器 染付皿	(13.4)	(8.2)	3.6	口縁一部 底器1/4	伊万里	近世		Ta1 フタ上
51	磁器 染付皿	-	7.8	<13>	底器3/4	伊万里	近世		DM1
52	磁器 染付皿	-	(8.2)	<20>	底器1/6	伊万里	近世		DM1
53	磁器 染付皿	(11.6)		<32>	口縁1/7	伊万里	近世		M2 2層
54	磁器 染付皿	(7.6)	-	<17>	口縁1/9	伊万里	近世		D18
55	磁器 染付皿	(7.9)	-	<21>	口縁1/8	伊万里	近世		Ta1
56	磁器 染付皿	(9.4)	(1.0)	5.4	口縁1/6 底器1/8	伊万里	近世		池 6層
57	磁器 染付皿	(10.2)	(4.0)	5.3	口縁一部 底器1/4	伊万里	近世		う-8
58	磁器 染付皿	(10.2)	-	<18>	口縁1/3	伊万里	近世		う 8
59	磁器 染付皿	(6.6)	(3.6)	5.1	口縁1/3 底器一部	伊万里	近世		う-7
60	磁器 染付皿	(7.0)	-	<43>	口縁1/5	伊万里	近世		D15
61	磁器 染付皿	(7.6)	-	<35>	口縁1/6	伊万里	近世		検出前
62	磁器 染付皿	(8.0)	-	<27>	口縁1/10	伊万里	近世		う-8
63	磁器 染付皿	(17.2)	(10.8)	3.6	口縁1/16 底器1/6	伊万里	19c		Ta1

第11表 陶磁器一覽表③

No.	器種	法量 (cm)			残存	産地	年代	備考	出土位置
		口径	底径	器高					
64	磁器 染付碗	(10.4)	(4.0)	5.5	口縁1/2 裏面1/2	伊万里	19C		い-9
65	磁器 染付碗	(11.2)	-	4.9	口縁1/4	伊万里	19C		後出面
66	磁器 染付碗	(9.9)	(3.7)	5.5	口縁1/3 底面1/2	伊万里	19C		い-9
67	陶器 鉄軸台脚付灯明具	4.5	4.5	5.0	口縁4/5 底面全存	在地?	幕末		後出面
68	陶器 鉄軸灯明具	9.2	4.3	2.0	口縁7/8 底面全存	在地	幕末~近代	外面 釉を拭き取った痕あり	DM1
69	陶器 鉄軸灯明具	(10.6)	(4.6)	1.7	口縁1/3 底面1/2	在地	幕末~近代	外面 釉を拭き取った痕あり	う-8
70	陶器 鉄軸灯明具	(10.8)	-	<2.2>	口縁1/2	在地	幕末~近代		う-6
71	陶器 鉄軸灯明具	(9.8)	-	<1.9>	口縁1/4	在地	幕末~近代	外面 釉を拭き取った痕あり	え-10
72	陶器 鉄軸灯明具	(11.2)	4.2	2.3	口縁1/4 底面2/3	在地	幕末~近代	外面 釉を拭き取った痕あり	け-12
73	陶器 鉄軸蓋	(8.3)	つまみ付 -	<1.4>	口縁1/2	在地	幕末~近代		DM1

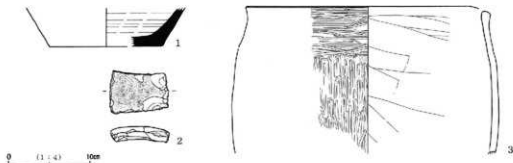
瓶類・深皿・腰折皿・小皿・天目茶碗がある。16世紀代の大窯製品は、16~28がある。器種としては、丸皿・碗・天目茶碗・皿・折縁皿がある。中世の常滑29~36は、いずれも甍片である。

近世では、18世紀代の瀬戸・美濃製品が7点あり、37~42の器種は、灰釉皿・灰釉せんじ茶碗・灯明皿・鉄軸碗がある。さらに、18世紀代の唐津製品として43・44と破片6点の灰釉呉器手碗がある。18世紀後半~19世紀代の伊万里は49~66と破片20点があり、器種は陶器染付陶胎碗・染付德利・皿・碗がある。46~48は、18世紀後半の在地窯川越石焼であろうか、灰釉雪平鍋・灰釉鉢がある。次に幕末~近代のものとして、在地窯の製品67~73の鉄軸台脚付灯明具・鉄軸灯明具・鉄軸蓋がある。

出土した陶磁器類は、輸入陶磁器の12~13世紀代、国産陶磁器類を主体に少量の輸入陶磁器を含む14~16世紀代、国産陶磁器特に伊万里製品が主体を占める18世紀以降の大きく3時期に分けられる。出土分布は、特に14~16世紀の瀬戸・美濃が、土鍋と同様にA地区に多く出土している。18世紀以降のものは、A地区のう-7・8グリッドに集中する。

第12表 須忠器・土師質土器一覽表

No.	器種	器形	法量 (cm)			残存	産地	備考	出土位置
			口径	底径	器高				
1	須忠器	甍	-	(14.0)	<4.7>	底面1/6	内 外 ロクロナア 朝顔ナデ・底面高切り後ナア	古外産 自然熱付着	お-10
2	須忠器		長 5.3	巾 7.9	厚 1.5		内 外 ヘラナデ タタキヨ	甍の二次利用	A区 カタラン
3	土師質土器	大鉢類	29.9	-	(18.0)	口縁3/4	内 外 ヘラナデ ミガヤ		M2 1層 P90-う-6



第17図 須忠器・土師質土器実測図

### 石摺鉢・臼・茶臼

本遺跡から、石摺鉢2点、臼9点（上臼4点、下臼5点）、茶臼2点（上臼・下臼各1点）が出土した。いずれも欠損品である。臼・茶臼ともほとんどが欠損部分が中心孔を通るように割れている。

第18図1・2の石摺鉢は平らな底部から直線的に立ち上がり、内面の形状はなめらかである。2点ともに外面に加工痕のノミ痕が見られる。

臼の目は切線主溝型が多く、3の上臼が目なし臼、5・6の上臼が放射型とみられる。目の分画は、6分画が4・7・8、8分画が9・11と考えられる。茶臼は2点とも明確でない。使用石材は、安山岩が主である。出土遺構は、土坑から3点、集石址から7点である。集石址のものは、廃棄された臼が礫と同様な意図で集積されたのであろう。

### 凹石

第20図の5点が出土した。1・2は、搗き臼といえようか。いずれも安山岩で、5を除いてT1号集石址からの出土である。臼と同様に礫群内から検出された。

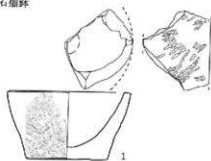
### 砥石

第21図の6点が出土した。4がA地区のD10号土坑、3・5がT1号集石址から出土した。2・4は、両端が残り、成形時の加工痕が残っている。3が砂岩で他の5点は、凝灰岩である。

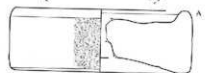
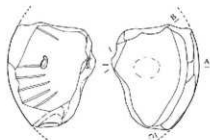
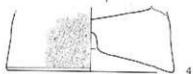
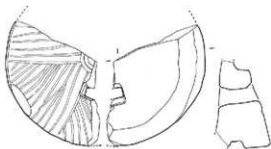
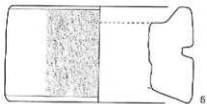
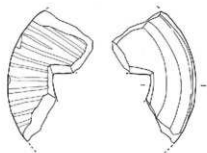
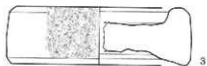
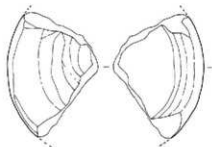
第13表 石摺鉢・石臼・茶臼一覧表

No	器 種	法 定			石 質	ふくみ	欠損 箇所	備 考	出土位置
		口径 (cm)	底径 (g)	器高 (g)					
1	石摺鉢	口径 (23.0) 底径 (15.0)	125	905	輝石安山岩	-	-	ノミ痕あり	あ-7
2	石摺鉢	底径 (14.0)	39	305	輝石安山岩	-	-	ノミ痕あり	T3 SW
3	石臼 (上臼)	(34.4)	10.6	3,230	角閃石安山岩	2.5	-		T2
4	石臼 (上臼)	(31.0)	<11.8>	4,630	輝石安山岩	3.6	(2.2)	供給口形状 長方形 挽き木孔形状 長方形	T3
5	石臼 (上臼)	(33.0)	17.7	3,960	黑色多孔質安山岩	<2.5>	-	供給口形状 長方形 挽き木孔形状 長方形	D07 No1
6	石臼 (上臼)	(33.8)	11.0	3,925	輝石安山岩	2.7	-	挽き木孔形状 長方形 2ヶ所有り	T1 う-6
7	石臼 (下臼)	(30.2)	8.8	3,260	輝石安山岩	2.2	(2.0)		T3 SW
8	石臼 (下臼)	(21.8)	14.2	7,430	輝石安山岩	2.5	(2.0)		え-6
9	石臼 (下臼)	28.8	12.2	6,770	輝石安山岩	2.6	3.0		T1 う-6
10	石臼 (下臼)	(21.0)	<3.5>	30	輝石安山岩	<0.2>	-		D7 SW
11	石臼 (下臼)	不明	12.1	3,060	凝灰岩	<0.8>	-		カクラン
12	茶臼 (上臼)	(31.4)	8.8	2,030	輝石安山岩	-	-		T1 う-6
13	茶臼 (下臼)	(18.0)	<10.2>	2,310	輝石安山岩	0.6	1.9		D21 No1

石櫛鉢



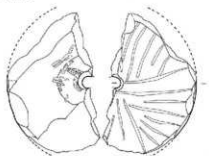
石臼 (上臼)



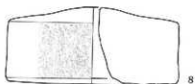
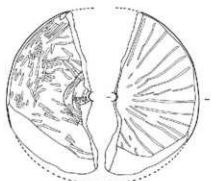
0 (1:6) 1.5cm

第18圖 石櫛鉢・臼 (上臼) 実測圖

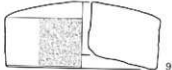
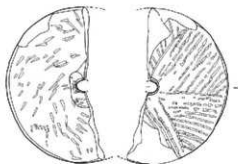
石臼 (下臼)



7



8



9

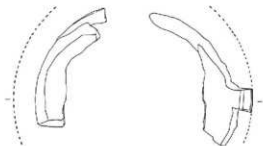


10

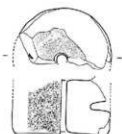


11

茶臼



12



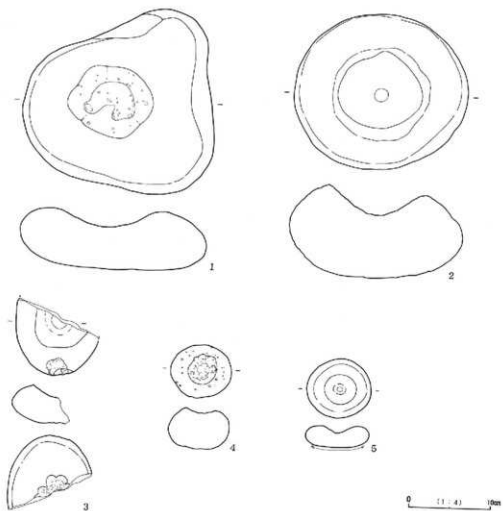
13

0 (1:6) 1.5cm

第19圖 白 (下臼)・茶臼夾測圖

第14表 凹石一覽表

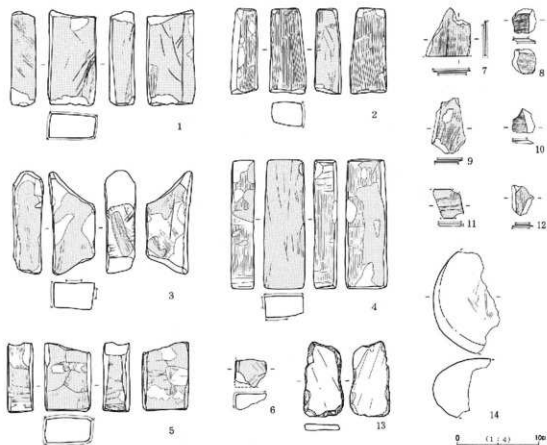
No	器 種	法 量				石 質	備 考	出土位置
		長 (cm)	印 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)			
1	凹石	22.5	22.5	7.3	5,700	輝石安山岩		T1 い-6
2	凹石	188	212	11.2	5,800	輝石安山岩		T1 う-5
3	凹石	<93>	<102>	4.6	430	輝石安山岩	磨打痕あり	T1 い-6
4	凹石	6.5	7.5	5.1	310	輝石安山岩		T1 う-6
5	凹石	7.3	7.8	2.6	230	輝石安山岩		お-9



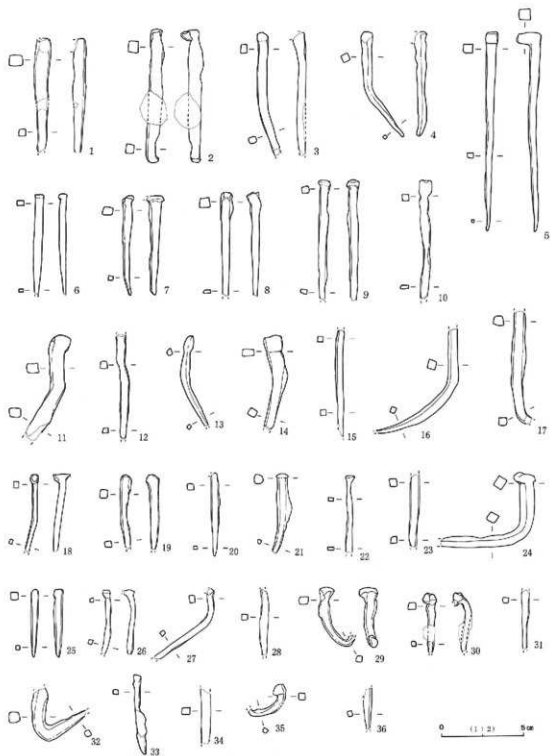
第20圖 凹石実測図

第15表 砥石・不明石製品一覽表

No	器 種	尺 寸				石 質	備 考	出土位置
		長 (cm)	巾 (cm)	厚高 (cm)	重量 (g)			
1	砥石	11.7	5.9	3.0	379	湖坑岩		T3-9
2	砥石	10.4	4.4	2.9	250	湖坑岩		T1
3	砥石	12.6	5.7	3.3	330			T3 中-11
4	砥石	15.8	5.1	2.7	430	湖坑岩		D10
5	砥石	8.5	5.7	3.1	300	湖坑岩		T1 5-6
6	砥石	<3.4>	<3.9>	<2.0>	25.3	湖坑岩		5-7
7	不明石製品	<5.9>	<5.4>	0.25	127	熱風岩	石鏃か?	DM1
8	不明石製品	<3.0>	<2.9>	0.3	4.1	熱風岩	石鏃か?	5-7
9	不明石製品	<6.7>	<4.1>	0.25	12.1	熱風岩	石鏃か?	DM1
10	不明石製品	<3.0>	<2.7>	<0.5>	4.5	熱風岩	石鏃か?	5-8
11	不明石製品	<3.6>	<3.7>	0.3	6.9	頁岩	石鏃か?	DM2
12	不明石製品	<3.7>	<2.7>	0.2	3.2	熱風岩	石鏃か?	DM1
13	不明石製品	9.2	4.9	0.8	64.5	雲母片岩		T3 SW
14	不明石製品	直径 (12.4)		7.2	530	石美安山岩		T3 SW



第21図 砥石・不明石製品実測図



第22回 鉄製品実測図①

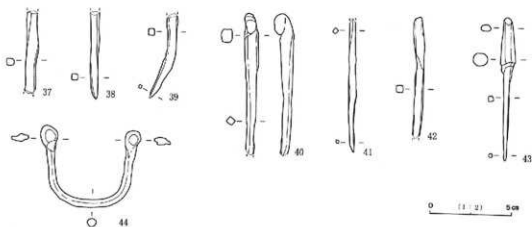


## 鉄製品

中世・近世と考えられる鉄製品が44点出土した。角釘が42点、鉄鎌1点、箒筒の把手1点である。角釘は、ほとんどがDM1号地下室内とその周辺グリッドからの出土である。第23図43の鉄鎌はD24号土坑から、44の箒筒の把手と思われるものはDM1号地下室内から出土した。

第16表 鉄製品一覧表

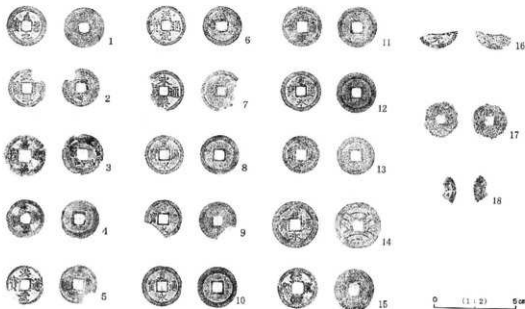
No	形 種	法 量				備考	出土位置	No	形 種	法 量				備考	出土位置
		長 (cm)	巾 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)					長 (cm)	巾 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)		
1	角釘	<6.9>	0.9	0.7	9.2		DM1	23	角釘	<1.4>	0.5	0.5	3.3		う-8
2	角釘	8.2	0.6	0.7	13.1		う-6	24	角釘	<8.9>	0.7	0.6	15.1		う-8
3	角釘	<7.3>	0.4	0.5	6.8		DM1	25	角釘	<1	0.5	0.5	1.7		え-8
4	角釘	7.1	0.4	0.5	4.6		え-9	26	角釘	<3.9>	0.2	0.2	1.6		う-8
5	角釘	12.1	0.6	0.5	14.5	完存	D17	27	角釘	<6.0>	0.3	0.4	2.8		DM1
6	角釘	<6.1>	0.4	0.3	4.4		DM1	28	角釘	<3.9>	0.4	0.4	1.9		え-9
7	角釘	6.6	0.5	0.7	3.5		T1	29	角釘	<5.3>	0.5	0.7	3.4		D9
8	角釘	<6.3>	0.7	0.7	6.0		え-8	30	角釘	<3.6>	0.5	0.4	1.7		う-8
9	角釘	<7.3>	0.5	0.5	5.9		DM1	31	角釘	<3.6>	0.4	0.4	1.7		カタラン
10	角釘	<7.3>	0.4	0.4	5.6		カタラン	32	角釘	<5.3>	0.6	0.6	5.4		い-7
11	角釘	<7.1>	0.6	0.7	11.4		T1 う-6	33	角釘	<2.9>	0.3	0.3	2.3		う-8
12	角釘	<6.4>	0.3	0.4	3.5		う-8	34	角釘	<3.4>	0.6	0.4	3.3		T3 トレンナ
13	角釘	<5.8>	0.3	0.3	4.5		カタラン	35	角釘	<3.2>	0.4	0.4	1.1		DM1
14	角釘	<5.7>	0.7	0.5	8.5		う-8	36	角釘	<2.5>	0.3	0.3	0.7		DM1
15	角釘	<6.5>	0.3	0.3	3.5		DM1	37	角釘	<5.0>	0.5	0.4	3.4		DM1
16	角釘	<9.1>	0.5	0.5	7.3		T1 う-6	38	角釘	<5.3>	0.4	0.4	2.9		DM1
17	角釘	<7.1>	0.7	0.6	3.3		え-9	39	角釘	<5.1>	0.4	0.4	2.7		DM1
18	角釘	<4.9>	0.3	0.4	7.1		DM1	40	角釘	<8.5>	0.8	0.8	9.1		DM1
19	角釘	<4.5>	0.4	0.5	3.8		DM1	41	角釘	<8.1>	0.3	0.3	4.1		え-9
20	角釘	.5.1	0.4	0.4	2.4		え-9	42	?	<7.3>	0.4	0.4	5.4		DM1
21	角釘	<1.8>	0.6	0.6	3.9		え-9	43	鉄鎌	8.7	0.9	0.8	9.3	完存	D24
22	角釘	<4.7>	0.3	0.2	1.5		え-8	44	箒筒の把手	4.9	6.2	5.0	9.4		DM1



第23図 鉄製品実測図②

### 古銭

本遺跡から18枚の古銭が出土した。渡来銭には、至道元寶(北宋)・嘉祐通寶(北宋)・元祐通寶(北宋)・太平興寶(安南)・洪武通寶(明)・永樂通寶(明)がある。寛永通宝は、新寛永通宝が6枚と背に11波の波紋を持つ四文銭(第24図14)が1枚出土した。寛永通宝の四文銭で1768年(明和5) 鑄



第24図 古銭拓影図

第17表 古銭一覧表

No.	銭名	初鑄年	時代	法量		備考	出土位置
				直径 (cm)	重量 (g)		
1	至道元寶	995	北宋	2.4	2.4		D12 E1K
2	太平興寶	970	安南	2.3	1.5		D7 S1K
3	嘉祐通寶	1056	北宋	2.5	1.7		P5 No1
4	元祐通寶	1086	北宋	2.4	2.3		17-13
5	洪武通寶	1368	明	2.35	1.5		D3
6	洪武通寶	1368	明	2.4	2.4		い-7
7	永樂通寶	1408	明	2.5	1.6		D1 S1K
8	寛永通寶	新寛永	江戸	2.4	2.5		T1
9	寛永通寶	新寛永	江戸	2.3	3.1		T1 5-6
10	寛永通寶	新寛永	江戸	2.5	1.9		T1 5-6
11	寛永通寶	新寛永	江戸	2.45	2.5		九-3 11層
12	寛永通寶	新寛永	江戸	2.5	4.0		25-10
13	寛永通寶	新寛永	江戸	2.3	2.4		17-13
14	寛永通寶	1769	明和	2.8	5.1	背に11波の波紋。四文銭。	い-6
15	〇〇〇〇	-	-	2.5	2.6		D28 No1
16	〇〇〇〇 〇〇元	-	-	-	0.7		D3 検出面
17	〇〇〇〇	-	-	2.3	1.1		T3 5-10
18	?	-	-	-	0.6		D12 E1K

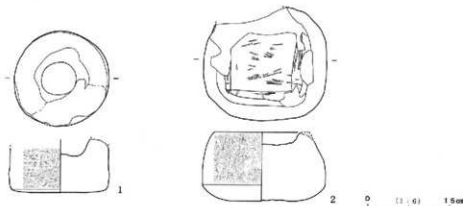
造のものは波紋が21波で、1769年から11波に変更されたという。渡来銭6枚の内5枚がA地区から、新寛永通宝7枚の内6枚がB地区（T1号集石址とその周辺）から出土している。

#### 石製品

第25図1の外側は平らで安定した厚みのある底部から直立し、内側は僅かな凸状の底部から緩やかに開き気味に立ち上がる。成形時の加工痕が外面に窺える。底径17cm、残存高9.8cm、重さ2.160gを測る。黒色多孔質安山岩であるが、内側は摩耗して滑らかである。欠損する上部の一部に使用面が残っており、片口の石播鉢とも考えられる。2も多孔質安山岩で図上の下面是円形だが、側面と上面は方形に加工されている。側面には成形時の帯状と筋状の加工痕が見られる。下面是安定感がないが平坦である。20個以上の不整形な小孔が認められる。上面には長辺12cm短辺11cmの、面が平らな方形の窪みが設けられている。幅0.2cmで浅く直線に刻んだ線状の溝で方形をかたどっている。煤のような附着物が見える。この方形の窪みを柄とみるならばある石造塔の一部を構成するものであろうか。

第18表 石製品一覧表

No	器 種	法 量			石 質	備 考	出土位置
		長 (cm)	巾 (cm)	器高 (cm)			
1	石播鉢	直径	17.6	9.8	2.160	黒色多孔質安山岩	T3 ホ-11
2	不明	<20.8>	22.7	<12.7>	4.300	黒色多孔質安山岩	T3 上



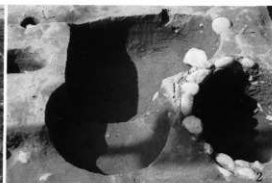
第25図 石製品実測図

## 第IV章 まとめ

江戸時代の絵図寛延4年（1751）の「信州佐久郡野沢原両村図」（第3図）には、土塁を一部伴う野沢館跡の外郭が描かれている。野沢館跡は県史跡に指定されている全周土塁と水路が巡る主郭と絵図や水路などから想定される外郭とで構成される回字形の館といわれてきた。平成14年度の「城山公園整備事業」に伴う調査で、主郭を巡る水路が堀跡と確認され、主郭の方形区画が14世紀以降に成立したとしている。今回の調査地点は、外郭と想定されている北辺と西辺にトレンチを入れることになった。結果は、幾多の予想どおり2地点で堀跡と考えられる溝が検出された。ただ、近世末から近現代の削平整地により深く攪乱を受けていて、想定される土塁の痕跡は窺えなかった。外郭の北辺にあたるM1号堀址の覆土下層からは12世紀後半・13世紀の青磁と中世の土鍋片が、上層から15世紀後半～16世紀前半の土鍋・中世の常滑甕が出土した。西辺のM2号堀址は、流水の影響を受け続けており、西側半分は現在の用水路と重なっていることもあり、存続時期等の明確な資料が得られなかった。

1. A地区全景

2. D1-D10



3. D2



4. D3

5. D4



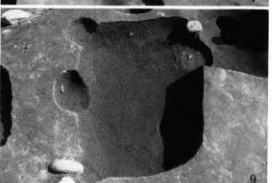
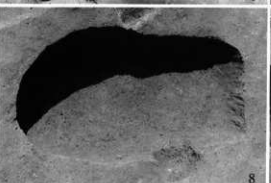
6. D5

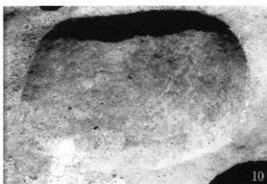
7. D6



8. D7

9. D8





10. D9  
11. D1 - D10 - D11



12. D12  
13. D11 セクション



14. D11



15. D13  
16. D11 折り方



17. P5  
18. D14

19. D15

20. D15



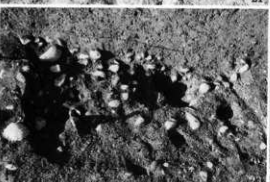
21. D15 掘り方

22. D16



23. D17

24. D18



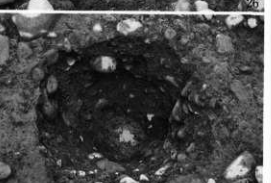
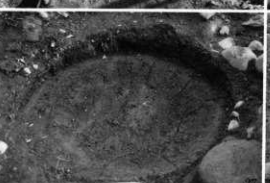
25. D19

26. D20



27. D20 掘り方

28. D21





29. D22  
30. D23



31. D24  
32. D24



33. D25  
34. D26



35. D27  
36. D28



37. D29  
38. D30

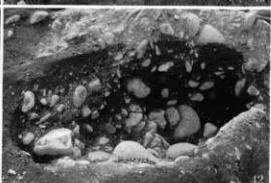
39. D31

40. D32



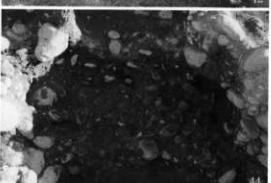
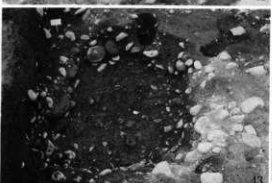
41. D33

42. D34



43. D35

44. D36



45. D37

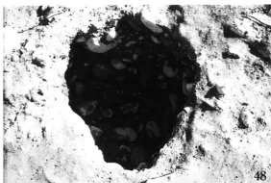


46. D38

47. D40







48



49

48. D39

49. Ta1 セクション



51

50. Ta1

51. Ta1 石組



52

52. Ta2



54

53. T1

54. T1 掘り方



56

55. T2

56. T2 掘り方

57. T3

58. T3

59. T3



60. DM1

セクション

61. T3 掘り方

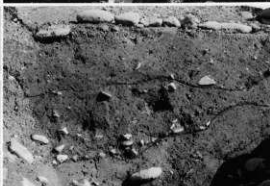


62. DM1

63. DM1

64. MI

セクション





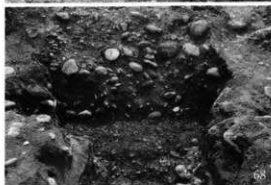
65



66



67



68

65. M1

66. M1

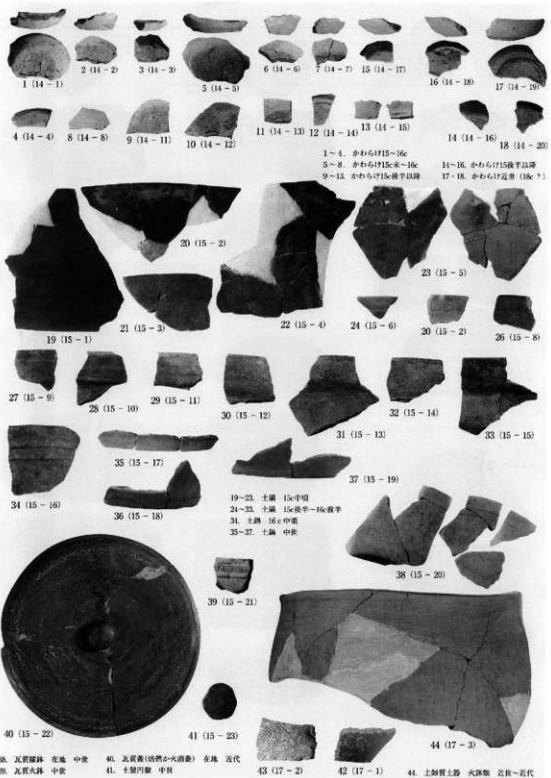
67. M1

68. M1



69

69. M2 セクション



1 (14-1) 2 (14-2) 3 (14-3) 5 (14-5) 6 (14-6) 7 (14-7) 15 (14-17) 16 (14-18) 17 (14-19)  
 4 (14-4) 8 (14-8) 9 (14-11) 10 (14-12) 11 (14-13) 12 (14-14) 13 (14-15) 14 (14-16) 18 (14-20)

1~4. かむらけ15~16c  
 5~8. かむらけ15c~16c  
 9~13. かむらけ15c後半以降  
 11~16. かむらけ15後半以降  
 17~18. かむらけ15c (18c?)

19 (15-1) 20 (15-2) 21 (15-3) 22 (15-4) 23 (15-5) 24 (15-6) 25 (15-8)  
 26 (15-8)

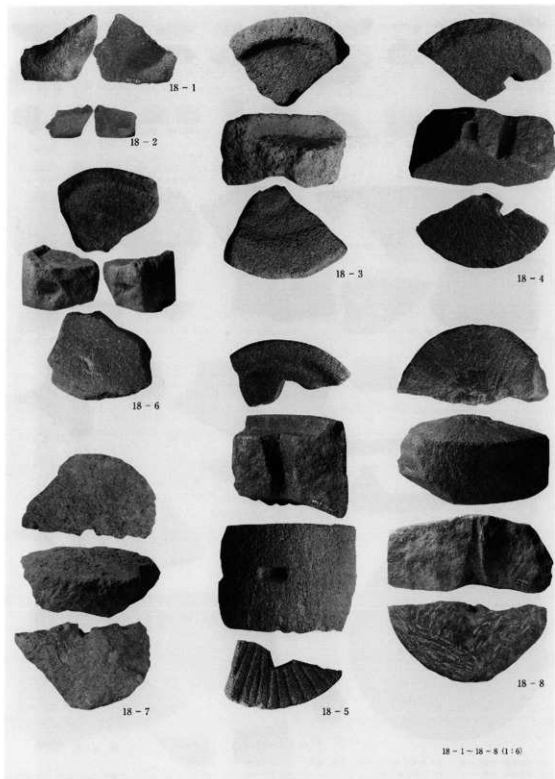
27 (15-9) 28 (15-10) 29 (15-11) 30 (15-12) 31 (15-13) 32 (15-14) 33 (15-15)

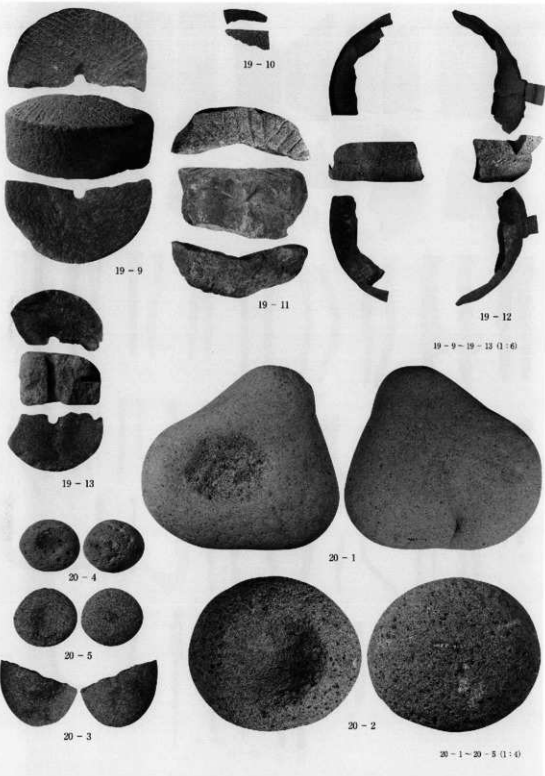
34 (15-16) 35 (15-17) 36 (15-18) 37 (15-19)

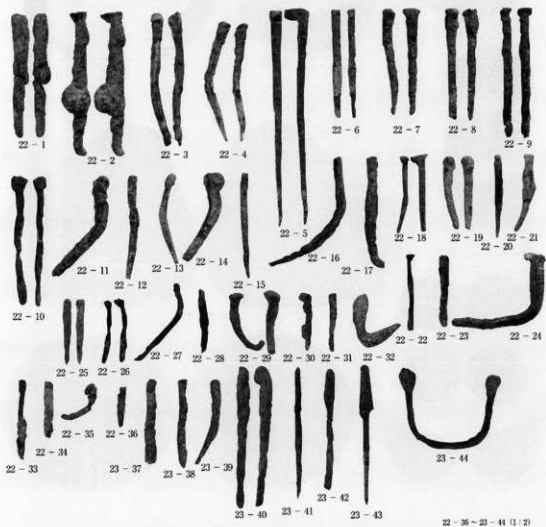
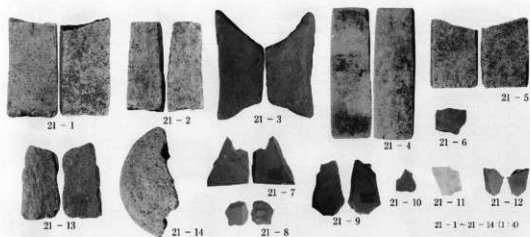
19~23. 土鍋 15c中頃  
 24~33. 土鍋 15c後半~16c前半  
 34. 土鍋 16c中頃  
 35~37. 土鍋 中世

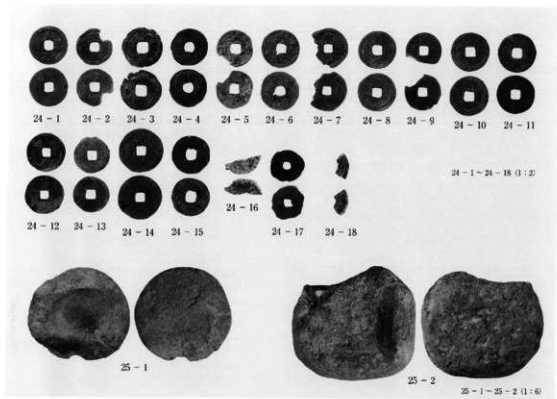
38 (15-22) 39 (15-21) 40 (15-23) 41 (15-23) 42 (17-1) 43 (17-2) 44 (17-3)

38. 瓦質磁鉢 在地 中世 40. 瓦質蓋(治癒小火酒蓋) 在地 近代  
 39. 瓦質火鉢 中世 41. 土製円盤 中世 42. 土製上唇 火鉢類 近世~近代  
 43. 土製上唇 火鉢類 近世~近代









B調査区 近景 (東より)



B調査区 近景 (北より)





野沢館跡付近航空写真（東より）

## 報告書抄録

ふりがな 書名	のぞわかんせき 野沢館跡Ⅵ
副書名	
巻次	
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第132集
編著者名	林 幸彦
編集機関	佐久市教育委員会
発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	20050331
作成機関 I D	
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-73210
住所	長野県佐久市大字志賀 5953
ふりがな 遺跡名	のぞわかんせき 野沢館跡Ⅵ
ふりがな 遺跡所在地	ながのけんさくしおおあざのぞわあざいやしき 長野県佐久市大字野沢字居屋敷
市町村コード	
遺跡番号	425
北緯	36° 13' 21"
東経	138° 28' 13"
調査期間	20031117-20040302
調査面積	450
調査原因	野沢本町沿道整備上地区画整理事業
種別	館跡
主な時代	中世
遺跡概要	野沢館跡外郭の堀址・堅穴状遺構・土坑。青白磁・陶磁器・土鍋・白・茶臼・古銭
特記事項	

佐久市埋蔵文化財調査報告書

第1集	〔金井城跡〕	第66集	〔中西ノ久保遺跡Ⅱ 仲田遺跡 寺畑遺跡Ⅱ〕
第2集	〔市内遺跡発掘調査報告書1990〕	第67集	〔供養塚遺跡〕
第3集	〔石附遺址群Ⅲ〕	第68集	〔前藤部遺跡〕
第4集	〔大木ヶ〕	第69集	〔高山遺跡Ⅰ・Ⅱ〕
第5集	〔立科ノ遺跡〕	第70集	〔観音堂遺跡〕
第6集	〔上宮根遺跡〕	第71集	〔市内遺跡発掘調査報告書1997〕
第7集	〔三貫遺跡〕	第72集	〔山道遺跡Ⅱ〕
第8集	〔巖のノ遺跡〕	第73集	〔西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ〕
第9集	〔西道141分館関係遺跡〕	第74集	〔五里河遺跡〕
第10集	〔坂原遺跡Ⅱ〕	第75集	〔久保山遺跡群〕
第11集	〔赤木地外遺跡〕	第76集	〔南沢津遺跡〕
第12集	〔石河遺跡Ⅱ〕	第77集	〔倉前前遺跡Ⅲ〕
第13集	〔上高山遺跡Ⅱ〕	第78集	〔蛇塚遺跡 蛇塚古墳〕
第14集	〔栗毛板遺跡〕	第79集	〔四ノ塚遺跡Ⅰ〕
第15集	〔野馬久保遺跡〕	第80集	〔四ノ塚遺跡Ⅱ〕
第16集	〔石並城跡〕	第81集	〔森部寺遺跡〕
第17集	〔市内遺跡発掘調査報告書1991〕(1月～3月)〕	第82集	〔市内遺跡発掘調査報告書1998〕
第18集	〔西宮根遺跡〕	第83集	〔下坂遺跡Ⅳ〕
第19集	〔上芝ノ〕	第84集	〔後名ノ遺跡〕
第20集	〔下坂遺跡ⅢⅢ〕	第85集	〔柳毛遺跡〕
第21集	〔金井城跡Ⅱ〕	第86集	〔市内遺跡発掘調査報告書1999〕
第22集	〔市内遺跡発掘調査報告書1991〕	第87集	〔石道遺跡〕
第23集	〔南ノ中里・西ノ中里遺跡〕	第88集	〔上宮根遺跡Ⅱ～Ⅳ 上芝宮遺跡Ⅱ～Ⅳ〕
第24集	〔上草場遺跡〕	第89集	〔田原部遺跡〕
第25集	〔上久保田Ⅱ〕	第90集	〔栗の木遺跡Ⅲ〕
第26集	〔藤塚古墳群・墓塚Ⅱ〕	第91集	〔西一本柳遺跡 中長塚Ⅰ・Ⅱ 松の木遺跡Ⅰ・Ⅱ〕
第27集	〔上久保田Ⅲ〕	第92集	〔注の前遺跡Ⅱ 中仲田遺跡Ⅱ〕
第28集	〔宮根新城遺跡Ⅴ〕	第93集	〔久保山遺跡〕
第29集	〔餅村遺跡Ⅱ 山法師遺跡Ⅱ〕	第94集	〔石石遺跡〕
第30集	〔市内遺跡発掘調査報告書1992〕	第95集	〔市内遺跡発掘調査報告書2000〕
第31集	〔餅村遺跡Ⅲ 山法師遺跡Ⅲ〕	第96集	〔上木ノ遺跡〕
第32集	〔泉ノ御〕	第97集	〔久保浜遺跡〕
第33集	〔坂原遺跡Ⅳ 下宮根遺跡Ⅰ 前藤部遺跡2〕	第98集	〔深堀Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ〕
第34集	〔西一本柳遺跡Ⅰ〕	第99集	〔中道遺跡Ⅱ〕
第35集	〔市内遺跡発掘調査報告書1993〕	第100集	〔野沢館跡Ⅲ〕
第36集	〔蛇塚Ⅱ遺跡Ⅲ〕	第101集	〔深堀遺跡Ⅳ〕
第37集	〔西一本柳遺跡Ⅱ 中西ノ久保遺跡Ⅰ〕	第102集	〔坪正坊遺跡Ⅱ〕
第38集	〔南ノ中里遺跡Ⅱ〕	第103集	〔聖塚 一第1分館一〕
第39集	〔中野敷遺跡〕	第104集	〔聖塚遺跡Ⅱ〕
第40集	〔寺領遺跡〕	第105集	〔宮根城遺跡Ⅳ〕
第41集	〔宮根新城遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 上久保田前遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ 西宮根遺跡Ⅱ・Ⅲ〕	第106集	〔餅村遺跡Ⅲ〕
第42集	〔雲山〕	第107集	〔聖塚 一第2分館一〕
第43集	〔機現ノ遺跡 池端遺跡〕	第108集	〔市内遺跡発掘調査報告書2001〕
第44集	〔寺迹遺跡〕	第109集	〔西一本柳遺跡Ⅲ〕
第45集	〔市内遺跡発掘調査報告書1994〕	第110集	〔佐久駅周辺上地区開発整理事業 埋蔵文化財発掘調査報告書〕
第46集	〔瀧ノ遺跡〕	第111集	〔上ノ城遺跡〕
第47集	〔上芝宮遺跡Ⅴ〕	第112集	〔西小塚〕
第48集	〔油堀城跡〕	第113集	〔西一本柳遺跡Ⅳ〕
第49集	〔根々井芝宮遺跡〕	第114集	〔供養塚遺跡Ⅲ〕
第50集	〔藤塚遺跡Ⅲ〕	第115集	〔聖塚 一第3分館一〕
第51集	〔寺中遺跡Ⅱ 中塚遺跡Ⅱ〕	第116集	〔東久保遺跡Ⅱ・東久保古墳群1号墳・宮田遺跡Ⅱ〕
第52集	〔坪の内遺跡〕	第117集	〔東久保山遺跡〕
第53集	〔四ノ坊遺跡Ⅱ〕	第118集	〔東近津遺跡〕
第54集	〔市内遺跡発掘調査報告書1995〕	第119集	〔野沢館跡Ⅳ〕
第55集	〔倉前前遺跡Ⅰ・Ⅱ〕	第120集	〔市内遺跡発掘調査報告書2002〕
第56集	〔聖原遺跡Ⅱ〕	第121集	〔後家山遺跡 東久保遺跡 宮田遺跡Ⅰ・Ⅲ〕
第57集	〔高師町遺跡Ⅱ〕	第122集	〔聖原Ⅲ〕
第58集	〔下穴山遺跡Ⅰ〕	第123集	〔西村ノ遺跡〕
第59集	〔市内遺跡発掘調査報告書1996〕	第124集	〔市内遺跡2003〕
第60集	〔宮根城遺跡Ⅱ〕	第125集	〔西一本柳遺跡ⅣⅡ〕
第61集	〔柳地遺跡〕	第126集	〔聖原遺跡 一第5分館一〕
第62集	〔野馬久保遺跡Ⅱ〕	第127集	〔西一本柳遺跡ⅣⅢ〕
第63集	〔西久保遺跡Ⅱ〕	第128集	〔野沢館跡Ⅴ〕
第64集	〔栗の木遺跡Ⅳ〕	第129集	〔戸取遺跡Ⅲ〕
第65集	〔中宿遺跡〕	第130集	〔平馬塚遺跡群 平馬塚遺跡Ⅰ〕
		第131集	〔久保山遺跡〕

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第132集

野沢館跡Ⅵ

2005年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市大字中込3056

文化財課

(〒385-0006 長野県佐久市大字志賀5953)

TEL0267-68-7321

印刷所 株式会社ダンバラ印刷